

# 中日会報

公益社団法人 中部日本書道会  
編集事務局 名古屋市  
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19  
山ビル8階C号00室  
電話 (583) 19000  
FAX (583) 1910番  
http://www.cn-sho.or.jp  
info@cn-sho.or.jp  
印刷 株式会社 荒川印刷

## 名誉会長あいさつ

——総会祝賀会祝辞より抜粋——

名誉会長 海部俊樹



会員の皆さま  
本日は誠に  
おめでとござ  
います。

中日書道展で

のご入賞ご入選、そして地域文化功労者表  
彰をご受賞されました安藤秀川先生心から  
お慶び申し上げます。

又、本日ここにご参列いただきましたご  
来賓の方々、御多忙のところ誠に有りがと  
う存じます。

本日は役員の改選ということで理事長も  
交代することになりましたが伊藤昌石理事  
長、二年の間お役目ご苦勞様でございます  
た。これからも中部の書道界を益々盛り上  
げるために、今迄以上にお力添え下さいま  
すようよろしくお願い申し上げます。

さて、私ごとではございますが、今年で  
満八十六才になりました。本日は八十八歳  
のご長寿のお祝いのかたも元気にご出席と  
伺っています。

まだまだ私も負けてはいられない、政  
界をしっかりと見ていかななくては、と思  
います。

皆様は日本固有の文化である書道を学ば  
れ追究されておられます。その書道を今ま  
で以上に育み発展させ、保護していくた  
め、世界にアピールする活動をしなければ  
ならないと思います。

只今は「世界遺産」に登録の実現を目指  
しユネスコに働きかけております。皆さん  
にもぜひ協力していただきたくお願い申し  
上げ、御挨拶いたします。

## 目次

- 1 名誉会長あいさつ
- 2 新理事長に就任して 関根玉振
- 3 新理事長に就任して 関根玉振
- 4 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 5 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 6 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 7 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 8 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 9 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 10 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 11 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿
- 12 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

## 新理事長に就任して



新理事長  
関根玉振

この度の改選にあたり、公益社団法人中  
部日本書道会の理事長という命を拝受致し  
ました。改めて責務の重大さをかみしめ身  
の引きしめる思いでございます。

本会は八十三年の輝かしい歴史と伝統を  
誇り、各会派を結集した総合団体として今  
日に至っております。

作品上の主義主張が異なった今派が、卓  
越した指導力と会員の協力により発展して  
参りました事は今ある私達にとっても誇る



理事長交替  
伊藤昌石氏から関根玉振氏へ

べきことです。私は理事長という立場を念  
頭におきながら、今までの経験を生かし、  
力強いメンバー・理事・企画委員の先生方  
のお力をお借りして精一杯務めさせていた  
だきます。

会員の皆様にとって楽しく夢のある書道  
会を第一にめざしておりますので、本会の  
事業に積極的に参加していただけますよう  
に公益社団法人としてふさわしい会へと邁  
進して参りたいと思っております。「一致  
団結」をモットーに皆様方のご支援・ご協  
力をいただくことをお願いし、私のごあい  
さつといたします。

## 団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化  
ユネスコの無形文化遺産に



- 13 第六十七回中日書道展 審査総評
- 14 受賞者紹介 作品・作品寸評
- 15 記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞
- 16 中日賞・桜花賞作品評
- 17 その他の入賞者
- 18 第六十七回中日書道展 当番審査員
- 19 中日書道展を終えて 副理事長前第一事業部長 伊藤仙游氏
- 20 協賛会員一覧
- 21 平成二十九年年度第一回理事会・総会・新理事
- 22 平成二十九年年度総会議案書(抜粋)
- 23 第二十九回書道教育研修会のご案内
- 24 平成二十九年年度第二十一回書の魅力公開講座(予告)

# 平成29年度 総会・本会功労者表彰

## 第67回中日書道展入賞・入選者祝賀懇談会

### 安藤秀川顧問 地域文化功労者表彰ご受賞

#### 祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小 島 瑞 柳

青葉眩しい平成二十九年六月十八日(日)、ウエステインナゴヤキャッスル天空の間に於いて平成二十九年総会、第六十七回中日書道展祝賀懇談会が開催されました。

松永清石副理事長の開会の言葉で出席者九八三名の盛大なる祝宴が始まりました。

最初にご都合で欠席されました海部俊樹名誉会長よりのお祝いのメッセージを、樽本樹郎名誉会長代行が代読されました。「書道を育み、発展させ保護して行く為に世界遺産登録を目ざしたい。私もまだまだ頑張ります。」とお言葉を賜りました。

続いて、ご来賓の中日新聞常任顧問の小山勇様より、「今年江蘇省で開かれる日中合道書展は国同志の改善に繋がるいい機会、是非成功させて頂きたい。」とお言葉を頂き、又書道文化研究家西嶋慎一様よりは「日本文化遺産登録に於いては、書き初めを主体とした今後の行程が重要視される、皆さんはその事を意識して努力して欲しい。」との熱いお言葉を頂きました。

次に、今年度地域文化功労者表彰されました安藤秀川先生に樽本樹郎名誉会長代行より花束と記念品が贈呈され、「これからも生涯現役で大きな字を書き続けたい。」と謝辞を述べられました。

ここで、ご公務で大変お忙しい中、中日書道会のために大村秀章県知事が駆けつけて下さいました。「友交提携している愛知県と江蘇省は今年十一月江蘇省で、来年六月は名古屋にて日中交流書展を開きます。是非盛り上がる様協力して下さい。」と、熱意を述べられました。

いよいよ東海テレビ放送加藤昭宏様の、「素晴らしい芸術文化が継承されることを願って」との言葉を添えられた乾杯の発声で祝宴が始まりました。

この後、米寿を迎えられました四名の皆さんに、樽本樹郎名誉会長代行よりお花と記念品が贈られました。益々のご活躍をお祈り致します。  
二時間余の盛況の中、大池青岑総務部長の閉会の辞により、盛大なうちに無事終える事が出来ましたこと、深く感謝申し上げます。



乾杯 加藤昭宏氏



祝辞 西嶋慎一氏



祝辞 小山 勇氏



祝辞 大村秀章愛知県知事

新名誉顧問

愛知芸術文化センター長

青木 幹晴氏

三重県立美術館長

清水 豊氏

新常任顧問

伊藤 昌石氏

松永 清石氏

顧問

上田 賦草氏

近藤 浩乎氏

佐藤 慶雲氏

富田 栄楽氏

中野 玉英氏



顧問

安藤秀川氏

地域文化功労者表彰

改組新第四回日展 審査員

顧問 近藤浩乎先生(新審査員)

ご長寿お祝い顕彰者

(出席者のみ)

平成二十八年度中に八十八歳になられた方々

常任顧問 土屋 陽山氏

評議員 石川 玄風氏

正会員 加藤満寿江氏

正会員 武村 静景氏



樽本名誉会長代行から花束を受ける土屋陽山氏

祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

本会名誉顧問 愛知 県知事 大村秀章様

本会名誉顧問 愛知芸術文化センター総長 神田真秋様

本会名誉顧問 衆議院議員 近藤昭一様

本会名誉顧問 衆議院議員 江崎鐵磨様

愛知県議会議員 岩村進次様

中日新聞社常任顧問 小山 勇様

中日新聞社顧問 大島寅夫様

書道文化研究家 西嶋慎一様

徳川美術館学芸部長 四辻秀紀様

中部電力株式会社代表取締役会長 太田宏次様

中日新聞社取締役事業担当 鷺見 卓様

中日新聞社取締役広告担当 井戸義郎様

中日新聞社事業局長 加藤宏幸様

中日新聞社事業局次長 澤田敬介様

中日新聞社事業部長 西原健二様

中日新聞社文化芸術局長兼文化センター部長 尾久充弘様

中日新聞社 山田雄一様

中日新聞社 小河敦史様

東海テレビ放送事業局文化事業部長 加藤昭宏様

司法書士 興水城治様

税理士 谷田義弘様

(順不同)

### 平成二十九・三十年 理事

理事留任 二十二名  
 新理事 八名  
 監事留任 二名  
 新監事 一名

平成二十九年六月十八日(日)ウエスティンナゴヤキャッスルで開催の総会において理事三十名が決まりました。その後本年度第三回理事会(新メンバーでの初理事会)が開かれ、新理事長・副理事長三名が選任されました。

理事長 関根玉振

副理事長 伊藤仙游

理事 岡野楠亭  
 松野英風

理事(留任) 天野青雲

大島緑水  
 大矢夏舟  
 川崎尚  
 武藤俊  
 波内童  
 平原采  
 原松海  
 水平谷

新理事

山内俊彦  
 山際江鶴  
 山本雲  
 横井宏軒

監

片山清洲  
 木保紫太  
 後藤啓齋  
 鈴木立景  
 中林立齋  
 馬場紀行  
 古川昇史  
 松浦華苑

新監事

佐野翠峰  
 伊藤英嶺

### 再任の役員・企画委員の方々

名誉会長代行 樽本樹邨  
 名誉副会長 安藤滴水  
 名誉副会長 鬼頭翔雲  
 第二企画部長 上小倉積山  
 兼IT部長 山内江鶴  
 半田支部長 山中律舟  
 西三河支部長 山口聲風  
 濃飛支部長 石原方燕  
 北勢支部長 井口桂祥  
 中南勢支部長 高根

### 〈新役員の方々〉

※関根玉振理事長はP1に記載しました



新理事長 新副理事長

縮る思いです。

昨期まで五期十年に渡り第一事業部長として中日書道展の運営全般に当たりましたが、多岐に渡る会の運営には経験不足を感じております。幸いにも新理事長関根玉振先生は、経験豊富にして情豊かな方ですので、岡野楠亭、松下英風両新副理事長と共に理事長を補佐し、任務の遂行に務めたいと存じます。



副理事長 伊藤 仙游

この度の改選により思いがけず副理事長を指名致しました。公益社団法人中部日本書道会の歴史と伝統を思い、その重責に身の引き

「少子高齢化」「書道離れ」など環境は厳しい処ですが、本会の伝統である「和の精神」「奉仕の心」を持って、理事長、事務局長と共に、会の更なる発展を目指してまいります。皆様方の温かいご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



副理事長 岡野 楠亭

この度の役員改選により、公益社団法人中部日本書道会の副理事長を仰せつかりました。本会は八十年という歴史と伝統があり、会員数四千数百人を要す中部地区最大規模を誇る書道団体であります、これまで錚々たる先人達のご努力とご尽力により築き上げてこられた本会だけに、そ



副理事長 松下 英風

この度は伝統と歴史ある公益社団法人中部日本書道会の役員改選に伴い、副理事長を仰せつかりましたこと、身の余る光栄と同時に、重責に心引き締まる思いでございます。

の責務の重大さを鑑みますと荷が重すぎますが、新理事長の関根玉振先生、そして新副理事長の伊藤仙游先生、松下英風先生のお力添えを頂き、微力ではございますがこの中部日本書道会の輝かしい伝統の継承と時代に即応した新鮮を求めて全力を尽す覚悟でございます。

会員の皆様には、これまで以上にご支援ご協力を切にお願いいたし、共に頑張りたいと思っております。何卒よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

今年度は、理事長や副理事長共に改選となり、新体制となりました。

関根玉振理事長に任せ、伊藤仙游副理事長、岡野楠亭副理事長と協力しあつて、精一杯職を務めて参りたいと思っております。

諸先輩、会員の皆様温かいご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



理事 片山 清洲

この度は、伝統ある中部日本書道会の理事にご推挙いただきまして、身に余る光栄と感謝申し上げます。理事としての義務と責任の大きさに身の引き締まる思



理事 木保 紫香

この度は、公益社団法人「中部日本書道会」の理事にご推挙頂き、大変光栄に思うと共にその重責に身の引



理事 後藤 啓太

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご

いでございます。

非力ではありますが、伝統書道の普及と本会の更なる発展のため先輩理事始め諸先生方のご指導の下、微力ながら精一杯努力し務めてまいり所存でございます。

皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

き締まる思いを痛感致しております。

諸先生方や先輩諸氏が築かれました今の伝統文化を守り、非力ではありますが、誠心誠意努力してまいります。先生方の御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

推挙いただき、身に余る光栄と感謝申し上げます。

平成十五年より企画部の一員として努めてまいりました。愛知万博での「世界のSHO・日本の書」、筆墨乱舞「わっ書い」、創立八十周年記念「いっ Sho 懸命楽しいっ書い」などのピクティブントにたずさわること



理事 鈴木 立齋

この度は、浅学非才な私を公益社団法人中部日本書道会理事にご推挙いただき、身に余る光栄と感謝申し上げます。

本会の創立の精神をまもり、輝かしい八十年余の歴



理事 中林 景

この度は、公益社団法人中部日本書道会理事にご推挙いただき、身に余る光栄に心より感謝申し上げます。

とができ、大変素晴らしい経験ができました。

本会は、他の地域では見られない超党派の書の団体・グループが協力し、書の発展のための事業を推進

しています。その歴史を大切に、本会の発展に精一杯努める所存です。

ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

史を築き上げられた、先賢の方々の業績を汚すことのないように、本会の目的「書道の普及、書道芸術の高揚および書道教育の振興」のために尽力してまいります。

もとより甚だ微力ではございますが、一層心を引き締め精一杯、職務を遂行する所存でございますので、会員の皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

諸先輩の先生方が築かれた、輝かしい伝統と歴史ある本会の理事という重責を日ごとに感じております。本会のますますの発展を願

い、気を引き締め直し、精一杯努力してまいりたいと思

います。今後とも、諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



理事 馬場 紀行

中日書道会に入会して四十年。漢字から仮名に移行して二十年が過ぎ、この度理事を拝命しました。種村山童先生に書の基本を、稲



理事 古川 昇史

この度は理事にご推挙賜り、身に余る光栄と心から感謝申し上げます。



理事 松浦 華苑

この度、名誉ある本会の理事に推挙されまして、責任の重大さに身の引き締まる思いがいたします。

垣松圃先生から書道界を、そして現在は黒田賢一先生から「書は人なり」を学ばせて頂いています。書活動は天職と作品創作に邁進して来ましたが、我々が二十歳代の頃は書を取り巻く社会事情が激変の今日に、微力乍らも経験を活かしつつ、道標となり得るのかが課題だと認識します。

先賢の築かれた輝かしい歴史と、和を基本にした伝統ある本会の役員として、その責務の重大さを考えるとの身の引き締まる思いです。浅学非才な私でありますが、会員の皆様方の温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

誠に浅学、微力で弱輩者ではありますが、先輩諸先生方のご指導を賜りながらお役に立てますよう努力し、この会の一助になればと、決意を新たにいたしました。

今後とも何とぞご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



監 事 佐野 翠峰

この度の役員改選により、新たに監事を拝命致しました。歴史ある会の重責をになう事となり、一段と気の引き締まる思いです。

本会の定款によりますと、監事の責務は「理事の職務の執行を監査し、法令の定めるところにより、監査報告を作成する。」と定められております。伊藤暁嶺先生、栢英峰先生両先輩監事にご指導、ご支援頂きながら、責務をはたして参りたいと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 平成二十九・三十年度 新企画委員



事務局長 大池 青岑

この度、事務局長の大役を仰せつかりました。責任の重さを深く受け止めております。

今回の人事におきまして、本部事務局は新部長五名を迎え、担当部署もほとんど一新され、名実ともに大改造となりました。支部におきまして、三支部で

支部長が交代しました。不慣れな点のあるかとは存じますが、各々が緊密に連携をとりながら、今まで以上にきめの細かい活動をしていきたいと思ひます。会員の皆様方のさらなるご支援をお願ひいたします。事務局長として気の付かぬ点、至らぬ点が多々あるかと思ひますが、理事長・副理事長を支え、また皆様方のお役に立てられますよう、精一杯務めさせていただきます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



総務部長 天野 白雲

この度の役員改選により総務部長を拝命することになりました。選任の大きさに身が引き締まる思いであります。これまで研究部長・庶務



庶務部長 村瀬 俊彦

この度、庶務部長を仰せつかりました。これまで褒賞部長、記録統計部長合せて五期十年務めさせていただきました。今までの経験を生かし、未知の部分も多



第一企画部長兼IT部長 佐野 翠峰

部長として本会の事業の運営に携わって参りましたが、総務部長という要職においては不慣れな部分も多くあるかと思ひます。理事長はじめ諸先生方のご指導とお力添えをいただき、中部日本書道会のために新たな気持ちで非力ではございますが最善を尽くす覚悟であります。今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

画部長兼IT部長の辞令を頂きました。第二企画部長兼IT部長上小倉先生はじめ次長、委員の方々のご協力を頂き、企画委員の先生方との密な連携をはかること



第一経理部長 横井 宏軒

このたび第一経理部長を拝命しました横井宏軒です。公益社団法人中部日本書道会の経理担当として、安定的かつ継続的な公益目的事業の実施、事業費・管理費の適切・的確な管理運営に努めたいと存じます。会計は、法人活動に関する情報をまとめ伝える手段であり、活動の成果を測



第二経理部長 山中 桂山

共に一致団結して、新たな事業の企画、迅速な情報公開に努めてまいりたいと思ひます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、経理を担当させていただきますにあたり、「①収支状況・財政状態に関して真実な報告 ②正規の簿記の原則に従って、正確な会計帳簿の作成 ③会計事実を明瞭に表示」を心がけたいと存じます。第一経理部の次長・委員および第二経理部の方々と適切・的確に遂行していきたいと存じます。役職をいただきました。公益社団法人中部日本書道会においてもIT化が進む中、任務の重大さを知り、果たして私が務まるだろうかという不安が今も拭いきれません。諸先生はじめ、税理士、事務員の方々、そして第一経理部長のご助言を

いただき、新体制のもと、全力を尽くす所存です。皆



会員部長 田中 修文

この度、会員部長の要職を拝命しました。会員の皆様に資料を配布し会費を徴収管理する役目ですので各支部の会員担当者の方々と



第一事業部長 後藤 啓太

この度、第一事業部長に就任することとなりました。本会の重要な事業の一つである「中日展」の審査会・展覧会等の運営を中心としたさまざまな重責に、身の引き締まる思いです。

様のご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

り組んでまいりたいと思えます。今年は二年に一度の会員名簿改正の年に当たります。高度情報化のなかで、名簿流出が社会問題となる昨今、個人情報保護の適正な行使・保護に責任をもつて努めてまいります。伝統ある中日書道会の築き上げた信頼のもと会員の皆様の絶大なるお力添えをいただき、微力ながら精一杯力を尽くしてまいりますので、何卒宜しくお願い致します。

交流展が併催されます。また、例年の開催会場である愛知県美術館の改装工事ともない、会場は名古屋市伏見の電気文化会館東西ギャラリー・イベントホールと名古屋市民ギャラリー栄、名古屋博物館での併設となります。私と共に第一事業部の業務をお手伝いいたたく先生方と、本会らしい大きなパワーとチームワークの良さで、一層充実した展覧会となりますよう努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



第二事業部長 馬場 紀行



研究部長 武内 峰敏

鬼頭翔雲先生・伊藤昌石先生の下で六年褒賞部を担当致しました。その間「中日書道展」「中日書きぞめ展」授賞式では、何かと不手際もありましたが、諸先生方のご指導ご支援と次長・委員の方々のご協力業務を遂行することが出来ました。誠にありがとうございます。



教育部長 廣澤 凌舟

この度、教育部長を拝命し身の引き締まる思いでございます。

この度、第二事業部部長を拝命し、寿展開催が担当行事のメインと伺いました。微力ながらも精一杯尽力させて頂きます。何卒のご指導をお願い申し上げます。

ございました。お礼申し上げます。

この度の改選で、研究部長を拝命致しました。主要業務が「講演会」「公開講座」です。今までの受講者から運営側へと変わります。関根玉振新理事長はじめ新副理事長、前任の廣澤凌舟先生、企画委員の方々のご指導を仰ぎ、この催しが公益社団法人として、そして会員の皆様方にとって今以上に魅力あるものとなるよう精一杯努めます。何卒よろしくお願い致します。

います。

教育部は「書道教育研修会」「書きぞめ展」が主な仕事となります。

学生部における従来の書きぞめ展の充実に加え、来場者の方にも楽しんでいただける様模索してまいります。一方書道教

育研修会における魅力ある講座の発信にもつとめてまいります。

関根玉振理事長はじめ副理事長、事務局長、前任の後藤啓太先生、企画委員の



褒賞部長 工藤 俊朴

四十七歳での記録統計部長を皮切りに、十八年に渡り、教育部長、編集部長等を経験してまいりましたが、部長十九年目の今年、褒賞部長を拝命致しました。



渉外宣伝部長 川崎 尚麗

渉外・宣伝部長を拝命にあたり、書道の普及、書道芸術の高揚および書道教育に関する事業を行い、日本文化の発展に寄与することに微力ではございますが、皆様と共に頑張つて参りたいと思ひます。

先生方にご指導を仰ぎ、次長、委員の皆様にご協力をいただきながら責務をはたしていきたいと思ひます。よろしくお願い申し上げます。

経験は重ねたものの、年齢もそれなりに重ねてまいりましたので、授賞式の慌しい中で頭の回転が追いつくのか？準備すべき物品の段取りが出来るのか？不安だらけではありますが、次長・委員の方々の協力を得て、「間違いない褒賞部」を目指してまいりますのでご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

いと思ひます。

渉外宣伝部とは、各種事業にかかわる公報に関する事、出版物等登載広告に関する事、文化事業における協力奉仕する。とあります。理事長、副理事長、事務局長、企画委員の先生のご指導のもと勧めたいと思ひます。よろしくお願い致します。また、次長、委員の方々は多大なご苦勞をおかけしますが、より一層ご協力をお願いいたしたいと思います。



記録統計部長

磯谷 凌聴

この度、記録統計部長という要職に就任することとなり、身の引き締まる思いであります。本会には中日書道展、寿展、書き初め展等、中核となる書道展が開催されます。展示会の記録



編集部長 林 柏堂

八十年を超える歴史と伝統を有する、公益社団法人中部日本書道会に於いて、この度、編集部長の重責を拝命させて頂くこととなりました。突然のご指名に、光栄な事とは存じますが、只々恐縮し、戸惑いが隠せ

を通し、出品された先生方、また一般の方々にも本会の魅力を発信できるように努めたいと思います。また、年間に実施される行事に際し、議論を積み重ねる会議が実施されます。行事の成功と将来の発展のために、正確に記録していくことができるように取り組んでまいります。新体制のもと会員皆様と共に微力ながら進んでまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ません。

四千名以上の会員の皆様方への大切な情報となる『中日会報』の編集とお届けが、中心業務となりますが、「間違いの無い情報の伝達を」と考えますと、身の引き締まる思いで一杯でございます。

理事長先生始め、先輩の皆様からのご教示を賜りながら、会員の皆様の為に、精一杯務めさせて頂く所存でございますので、宜しくお願ひを申し上げます。



厚生部長 古川 昇史

この度は思いも掛けず、厚生部長という大役を仰せ付かり、その責務の大きさを痛感しております。

理事会・評議員会・総会と



一宮支部長 川浦 碧濤

本年二月五日開催の支部集会に於いて、一宮支部長のご指名を受けました。

この大役を拝命し責務の重大さに緊張の連続です。

もとより浅学非才の身ではありますが、前支部長岩田潤流先生の心温まるご教導を始め、先輩諸賢の先生方の御指導を仰ぎつつ、一步一歩着実にこの職責を全う出来るよう力一杯勉強させてい

会員の皆様の福利厚生並びに会員相互の交流が円滑に運営出来ます様、次長・委員の先生方と共に努力を重ねていく所存であります。また前任の先生の教えを大切に進めていきたいと思っております。

何卒、ご指導、ご鞭撻を賜わります様お願ひ申し上げます。

ただく覚悟でございます。

幸いにも、支部運営を支えていただく執行部役員の方にはベストメンバーに恵まれ明るく活気ある行事進行に成り得ると確信しております。特に、行事一つに目では見ることが出来ない担当の細部まで行き届いた配慮の基、準備諸作業が絶え間無くございます。本部との関係プレーを保ちつつ、一宮支部という大チームの輪で、皆様と共に「仲良く」進歩をしてまいりたいと願っております。

何卒、御指導御支援を賜りますよう、切にお願ひ申し上げます。



東三河支部長

林田 虎峰

このたび、東三河支部長を仰せつかりました、林田虎峰です。前任の古川昇史先生は、十年にわたり、東三河の支部長として、会員百四十余名を纏めて地域の書の発展に大きな功績を残してこられました。そのあ

とを受け継ぐ微力な私にとりましては、支部長は、あまりの重責で、身が引き締まる思いです。諸先生方のご指導を頂きながら、務めさせて頂きたいと思っております。

東三河支部会員が、活力ある作家活動ができるよう、手となり、足となり、纏め役、又代表として動き、東三河地域の書道の発展に寄与していきたいと思っております。よろしく、お願ひ申し上げます。



岐阜支部長 坪田 景照

このたび、岐阜支部長にご推挙いただきまして、ありがとうございます。

四十五年程前に入会、その頃は私も若く大変活気のある会でした。最近各支部

皆様により一層のご支援、ご協力をいただき任務を全うしたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 新 事 務 局

事務局長 大 池 青 岑

部	部 長	次 長
1. 総務部	天野白雲	浅井明奈・原 霞扇
2. 庶務部	村瀬俊彦	天野梢華・伊藤新川・神谷緑泉・村瀬季舟
3. 第一企画部兼 IT 部	佐野翠峰	伊藤昌園・高桑巖風・鳥居柳城
4. 第二企画部兼 IT 部	上小倉積山	庄田華鳳・新美秋鳳
5. 第一経理部	横井宏軒	岩田緑汀・田口勢望・武田晶庭
6. 第二経理部	山中桂山	葛谷恵園・松佐古溪水
7. 会員部	田中修文	滝本白峰・山内窓楓・吉原愛璃
8. 第一事業部	後藤啓太	伊藤小游・伊藤龍仙・川本大幽・高木玄齊・丸山聖峰・溝口子静
9. 第二事業部	馬場紀行	石黒直子・岡田麗峰・加藤秀慧・川合玄鳳・鈴木松厓
10. 研究部	武内峰敏	浅井禎香・亀井小琴・清水春蘭・下村汀柳
11. 教育部	廣澤凌舟	内山蘭月・國島英華・小坂克子・式守白菽・鈴木静香・中川星光・長谷川幽岱・松下聖心・三代雄峯・村上史麗
12. 褒賞部	工藤俊朴	神谷松扇・小島泰子・関根玉翠・竹内清泉・谷 鴻風・塚田俊可・福島有何・原田圭竹・水野峯翠
13. 渉外宣伝部	川崎尚麗	林 紫香・松崎青漣・鷺野紫篁
14. 記録統計部	磯谷凄聴	梶山盛涛・衣川彰人・高橋栖雲
15. 編集部	林 柏堂	浅井紅鶴・江川翠苑・築山みなみ・中井港星
16. 厚生部	古川昇史	伊藤静雅・内田翠径・落合玉泉・永谷恵子

支 部	支部長	支部次長
1. 一 宮	川浦碧濤	村田光柊・吉田桃花・鷺野紫篁
2. 半 田	山内江鶴	平松采桂・林 柏堂
3. 西三河	山口律舟	磯谷凄聴・加藤矢舟・加藤松雲
4. 東三河	林田虎峰	大河戸柳光・古川侃司・村井康山
5. 濃 飛	石原聲風	倉地西菽・中垣幸聲・増田春暉・三野島凌雲
6. 北 勢	井口方燕	荒木友梅・伊藤艸亭
7. 中南勢	高根桂祥	菅生攝堂・谷 鴻風・山川杉徑
8. 岐 阜	坪井景照	伊藤小游・後藤文明・武井岳峰・早川 修

※紙面の都合で委員の方については掲載出来ませんでしたので、同送の会員名簿をご覧ください。

# 第67回 中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻、刻字

## 愛知県美術館ギャラリー

愛知芸術文化センター 8階  
 審査顧問、特別出品、一科審査会員、二科審査会員、依頼、無鑑査(かな、近代詩文少字数、篆刻、刻字)作品 海部俊樹賞、大賞、準大賞、中日賞、桜花賞を含む  
 (特別展示) 第67回 中日書きぞめ展 優秀作品  
**6月14日(水)～6月18日(日)**  
 午前10時から午後6時  
 16日(金)は午後8時まで  
 最終日の18日(日)は午後4時まで

## 名古屋市民ギャラリー栄

無鑑査作品(漢字)  
 (中日賞、桜花賞は愛知県美術館ギャラリーに展示)  
**6月13日(火)～6月18日(日)**  
 午前9時30分から午後6時  
 最終日の18日(日)は午後4時まで  
 授賞式・祝賀会  
 6月18日(日)ウェスティンナゴヤキャッスル

## 名古屋市博物館

一科作品  
**6月20日(火)～6月25日(日)**  
 午前9時30分から午後5時  
 二科作品  
**6月28日(水)～7月2日(日)**  
 午前9時30分から午後5時  
 最終日の2日(日)は午後3時まで

主催/公益社団法人中部日本書道会・中日新聞社 後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市 各教育委員会



愛知県美術館ギャラリー  
第67回中日書きぞめ展優秀作品



名古屋市民ギャラリー栄会場



名古屋市博物館会場

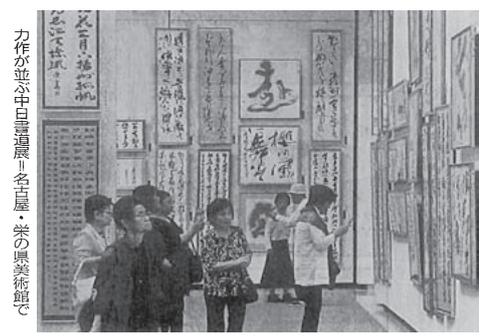
### 出品数一覧表

	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
審査顧問	6	1	2	0	0	9
特別出品	-1 1	0 0	-1 0	0 0	0 0	-2 1
一科審	-5 308	-5 75	-2 62	-2 36	-2 23	-16 504
二科審	20 402	4 74	12 112	2 38	0 28	38 654
依頼	-23 304	-3 65	-3 83	-1 24	-2 23	-32 499
無鑑査	6 317	-1 56	5 96	-1 21	-4 39	5 529
無鑑査 ～21歳	-2 1	0 0	0 0	0 0	0 0	-2 1
一科	-55 498	-22 88	-8 138	-1 41	-6 67	-92 832
(18～21歳)	6 44	1 1	3 19	-1 0	-2 0	7 64
(15～17歳)	0 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 6
二科	13 393	1 87	-11 115	-2 33	4 39	5 667
(15～21歳)	-55 327	2 5	-24 122	2 17	-2 7	-77 478
出品合計	-96 2,607	-23 452	-29 749	-4 210	-14 226	-166 4,244

### ひまぎまな流派一堂

名古屋 中日書道展が始まる  
 第67回中日書道展「栄」と、名古屋市瑞穂区、中日新聞社共催の「中日新蘭社共催」が十  
 四日、名古屋・栄の県美術館ギャラリーにて始  
 まった。  
 中日日本書道会は、四干五百人が所属する東海地方最大の書道団体。今回は四千二百四十九人が寄せられ、メイン会場の県美術館ギャラリーのほか、名古屋・栄の市民ギャラリー、じみで味わいを表現し

た作品などが並んだ。同会の伊藤昌石理事長(左)は「ひまぎまな流派の作品が一度に集しめ、見応えがある」と語った。  
 会期は会場によって異なる。県美術館ギャラリーと市民ギャラリー「栄」(十三日開幕)は十八日まで。市博物館では「一科」二十五日と「二科」七月二日に開かれる。各会場に「回す」入れる券は大学生以上三百円。高校生以下は入場無料。(石井宏樹)



中日新聞 2017.6.15(木)

# 第六十七回中日書道展を観る

名誉顧問 西嶋 慎 一



書道界では、このところ、これまでになく結束し斯界の振興策を模索している。すなわち、一つは学校教育において毛筆書写の充実を求める運動であり、二つはユネスコの無形文化遺産に日本書道を登録せんとする試みである。

学校教育での毛筆書写普及即進の願いは、全書壇あげて九三万人もの署名を集め、文部科学省へ提出する大運動となった。書写教育に携わって来た教官諸氏は、この大署名を背景に、学習指導要領に毛筆書写につき、これまでにない具体的実践を盛り込むことに成功した。

ユネスコへの登録も、書きぞめに焦点を当てて、具体性ある提案として結実しつつある。中部日本書道会は、早くから書きぞめ展を重視し、本年も一五九四九点の応募を受け、優秀賞の七五点を会場に陳列している。

ユネスコへの登録申請に当っては、具体的実施状況の「行程」が重要だと、ユネスコにかつて在籍された専門家が指摘してい

る。中日書きぞめ展は、図らずも、この「行程」の一具体例として大きな意味を占める。

学校教育における「毛筆書写」の重要性をアピールするためには、中日書道展の審査方法が、それに適う質か否かが問われることとなる。つまり、技法レベル向上を目指した審査であり、作品であるかが、これまで以上に問われることとなる。

海部俊樹賞を受けた野村楊月は、行書の五行を、濃墨で文字に大小をつけて書く。しかも、章法が整っていて、技法の錬度、表現力も申し分ない。中日展の審査能力を十二分にうかがわせる佳作だ。大賞の永井友理は、古典的なかな作品で、品格を保ちつつ、歯切れの良い筆運びが作品の密度を高めていた。

準大賞の岩城みつ代、内山紫泉、稲吉欣香、渡辺湖風、河口宵華の諸氏は、表現の方向は異なるものの、技法の確実さが好ましい。

中日賞の林華香、伊藤弥生、片桐千賀子は、筆の運びに真実さがある。篆刻の大原裕美は刀法の確かさで輝いていた。

幹部の作では、黒田玄夏、安藤滴水の詩文書が、いずれももつくりした味わいを見せ、年輪の重なりを感じさせる。加藤裕の權の句は、表現の鋭さで随一と評せよう。

しかし、読み易さに配慮が欲しい。篆刻の岡野楠亭、朱文印も問題作だ。溶け行くカキ水の如き、有るか無しかの存在感は不思議な魅力だ。

かなでは、黒野清宇の長老らしい存在感、近藤浩乎の思い切りの良さが印象に残った。

土屋陽山は膨らみのある線で詩経伐木の一節を演じ切る。師のこの方向に倣う川崎尚麗のワガママな章法も卓抜である。

確かな筆で淡々と書き進むのは平松紫雲だ。梶山夏舟、上田賦草、工藤俊朴、山本雅月も力量あふれる作だ。

いつになく盛り上がり豊かな岡本苔泉も、この一派に加えたい。

逆に、松下英風、横山夕葉、古川昇史、伊藤昌石は考え過ぎだ。平明な筆を用いるべきだ。

中林路風、安藤秀川、加藤子華は境地の世界。だが、鬼頭翔雲、関根玉振、佐藤慶雲がこの組に入るのは早過ぎよう。

渡辺笙鶴、大島緑水、天野白雲、横井宏軒、後藤汀鶯、松永清石、山際雲峰、中野玉英は手堅い。

村瀬俊彦、伊藤仙游、大池青岑は、表現の前に筆の充実を考慮すべきだ。樽本樹邨は、中部で朝

日二十人展唯一のメンバーである。中日展の粋が凝縮された作を望まれよう。今回の「寂慮延清風」は充実した線で、構築性に欠かず、率意の世界を目指すとする。問題作だ。

一覽して、中日展の技法水準の高さには感銘を受けた。学校教育での毛筆書写推進は、かような錬度ある技法から自然に出て来よう。



作品をご観覧される西嶋先生

# 中京圏を代表する書展

名誉顧問 田宮文平



昭和二十二年十月一日発行の『書道評論』紙上に中部日本書道会の「書道祭」の記事が出ている。江戸末期から現代に至る中日の知名の物故者を調査して法要を行い、遺墨を展示しようというのである。未だ、戦時の混乱も収まらないなか、みずからのアイデンティティーを確認し、いち早く再建を計ろうとする意気込みが感じられる。そのエネルギーが、今日の公益社団法人中部日本書道会（理事長伊藤昌石氏）の基となっているのであろう。

その中部日本書道会の年間の最大の行事が、中日新聞社と主催する中日書道展（愛知県美術館、名古屋市民ギャラリー、名古屋博物館）で、数千点規模を誇り、首都圏、関西圏と共に三大書道圏を担っている。第一部漢字、第二部かな、第三部近代詩文、第四部少字数、第五部篆刻・刻字の五部構成で、記念展の際の企画は別として通常は、役員層から応募層まで半切大を中心とした規格サイズに統一され、整然と並ぶ風景はまさに壯観の一言に尽きる。漢字

は謙慎系、かなは関西系、近代詩文は創玄系、少字数は独立系、篆刻は全日本篆刻系が核となつて、それぞれ特色を発揮している。

圧倒的に出品数の多いのが漢字である。樽本樹郎「寂慮延清風」は、縦形式五言句の行書で、骨法強固のなかにも詩句の清韶さを宿す。鬼頭翔雲の七言二句は、隸楷混淆した筆致で墨量を巧みに扱って字間の純白の変化も生かす。伊藤昌石の七言二句は、縦二行の草書体で淡い墨彩を駆使して流れがよい。関根玉振「水鷺雙飛起」の五言句は骨格のなかにも文字のイメージを感じさせる。松永清石は、多字数の草書体で縦三行の流れと行間の広さが印象深い。後藤汀鷺「良寛詩」は、縦二行に緩急自在。土屋陽山「詩経」は独自のシャープな筆触と空間の変化も巧みだ。中林路風は、七言句を縦一行に淡々と書く。

次に現役の理事クラス。天野白雲は良寛詩を縦二行にすっきりと展開。伊藤仙游の高青邱詩は、いかにも若武者らしく大字を奔放に造形。上田賦草は、縦二行の行書体で、や、右肩上りの運筆に勢いがある。大池青岑は、縦二行の緩急の間合いが清新である。梶山夏舟は、縦三行をこの人独特のリズム感で貫く。加藤矢舟は、正方形の空間に万葉歌を四行、文字の大小を巧みに配

す。川崎尚麗は、縦二行の七言二句を字間をたっぷりとつて清韻である。工藤俊朴は横形式八行に求心力のある筆致で、行間の純白も効果的だ。佐藤慶雲は、縦一行に七言句の点画の疎密を工夫。富田栄樂は、正方形の空間に四行、や、左傾きの意匠を生かす。中野玉英は、李太白の五絶を縦二行に展開し、墨彩の変化も巧みだ。平松采桂は、千字文の四言二句の大字草書をダイナミックに展開。松下英風は、七言句を淡墨で縦一行、点画の感覚に独自性を発揮。山内江鶴は縦三行に多字を整然と貫通。山際雲峰は、縦二行に北朝の楷法が迫力満点。横井宏軒は縦二行の隸書に字間の純白が生かす。伊藤曉嶺は傳山詩をその書風のイメージで奔放に展開。

第二部かなは、黒野清宇が中心的存在。

第四部少字数は横山夕葉、波切童州等。第三部近代詩文は、漢字について出品数も多い。安藤滴水は上田五千石句を正方形に配して本格感がある。黒田玄夏は横形式七行、長老にして実に瑞々しい。加藤裕は尖鋭の感覚で展開。モダンアートか。原田凍谷は吉田一穂詩を漢字、平かなをよく調和する。平松紫雲の良寛詩は調和体で終盤の充実感が抜群。

篆刻は、岡野楠亭の朱文は辺縁を太く、本文の奏刀は清韻。落款の書もみごとだ。辻苔泉、平田蘭石の朱白二顆も秀作。財界人の太田楷風の朱文は趣味の域を超える。また、第一室ではないが、磯貝弘子、小坂克子、日比野妃扇の女流の存在も頼もしい。



作品をご観覧される田宮先生

## 第六十七回中日書道展 審査総評

審査部長  
松永清石

第六十七回中日書道展の審査部長を仰せつかりました。

大役ではございますが経験豊富な副部长をはじめ、主任、委員の優秀なスタッフに恵まれ、お蔭をもちまして無事終了することができましたこと、先ずしてお礼申し上げます。

さて、なにかと困難な時代、厳しい状況下でありますが、今年度の出品総数は四二四四点でした。ご出品いただきました指導者の先生方の本展に対する深いご理解と熱意によるものと感謝申し上げます。

審査は五月十三日から十五日まで愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において実施しました。当然のことながら、良い作品が良い結果が得られるよう、一党一派に偏することのないようにとの基本方針に基づき臨んでいただきました。

第一日目は二科作品一四五点の中から、二日目は一科作品九〇二点の中からそれぞれ定められた入

賞比率に従い選出、決定をしていただきました。最終日には特別賞選考委員による慎重な審査により中日賞五点と桜花賞七一点を無鑑査作品から、また依嘱作品の中から、準大賞は五一点を選考していただき、最高賞の海部俊樹賞には一部の野村陽月さんが、大賞は二部から永井友理さんがそれぞれ栄誉に輝かれました。

作品は、多種多様であり力作がそろい、いづれも遜色のないものばかりで質的向上を実感いたしました。

特に若年層は今年、導入十年目を迎え出品数も定着、作品の内容も益々充実し上位入賞者も数多く見られました。

厳しい審査を経て入賞されました皆様はその作品が高く評価されたのでありますから、誠におめでとうございます。努力が報われず、惜しくも目標とするとともに一歩及ばなかった方には、この結果に怯むことなく一層の精進を期待いたします。

結びに、今回の審査にあたり、ご指導やご支援ご協力を賜りました全ての皆様にご心から感謝と御礼を申し上げます。



特別賞選考委員

# 海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉 伊藤 仙游・天野 白雲 (一部)・村瀬 俊彦 (二部)・  
加藤 裕 (三部)・水谷 海越 (四部)・平田 蘭石 (五部)

## 平成29年度 総会・第67回中日書道展授賞式 公益社団法人 中部日本書道会



海部俊樹賞・大賞・準大賞 (1部) 受賞者

### 海部俊樹賞

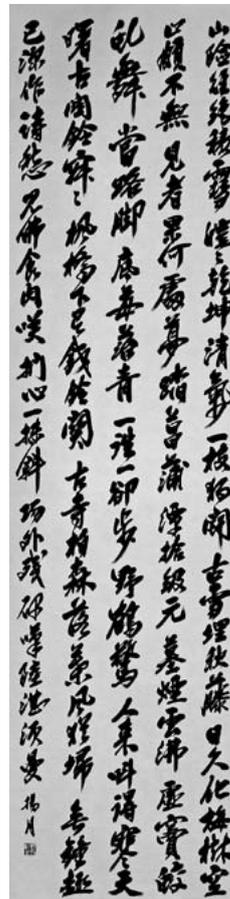
第一部 野村揚月



この度は思いがけなく身にあまる賞をいただき、驚きと感謝の気持ちでいっぱいでございます。審査にあられた諸先生方、これまで温かく熱心にご指導下さいました先生、そして支えて下さっているまわりのみな様に深く感謝いたします。書道展では毎回締め切りが近づく、焦りに焦って

ひたすら書きまくり、結局納得のいくものが書けないままで出品するというくり返しです。このように実に未熟な私ではありますが、今回の受賞を励みに今後一層努力して参りたいと思います。

〈評〉  
豊潤な筆致・謹厳な字形による五行作、統一された美意識に鍊度の高さを感じず。



### 大賞

第一部 永井友理



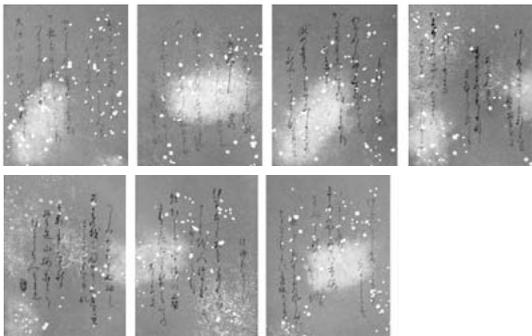
この度は、思いがけず身に余る大賞を頂きまして、驚きと感謝の気持ちで胸がいっぱいでございます。

これも偏に審査にあたられました諸先生、また温かく御指導くださいました先生方に心より御礼申し上げます。

作品は散らしの構成、余白、墨の濃淡などに気を配り、リズム感を持たせながら書き上げました。ただ、少々墨が入りすぎ渴筆の線が出せなかったのが残念です。

賞の重みをしっかりと受け止め、一層精進して参る所存でございます。今後とも御指導よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉  
流暢な線の流れの中に、古典の趣を取り入れた品にまとめあげている。



準大賞

第一部 浅井祥舟



この度は準大賞という栄誉ある賞を頂くことができた大変光栄に思います。これも偏に熱心にご指導下さい

ました師と諸先輩方のお蔭と心より感謝して  
います。  
今回の作品は常々勉強しています王鐸の特

長が出せるようにと思いつき取り組みました。思うように書けず未熟さを痛感し、王鐸の書法を何度も見返し作品作りをしたことを思い出します。  
これからのこの賞を励みに、一つ一つ丁寧に書に取り組み、純粹に書を書き続けたいと気持ちをおあたりにしています。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。  
〔評〕  
温順にして自在に躍動する運筆が、余白の美と相まって品格の高い作となった。



準大賞

第一部 浅野春陽



この度は準大賞にご推挙いただき、誠に有難うございました。偏に、故師匠及び、会の諸先生方のご指導

の賜物と感謝申し上げます。  
今回初めて色紙を使用しました。その華やかさに負けない様、振れ幅を大きく、力強くまとめることに努めました。

書が続けるにあたり、岐路に立たされる辛い出来事が多々ありましたが、家族と書に關わる周りの方々のご支援あつての受賞と、感恩するばかりです。  
今後は、二科審査会員の名に恥じぬよう、書の技術、知識を身につけるべく、微力を尽くす所存です。  
〔評〕  
大胆にして奔放、墨量・字形共に古意をよく汲み堂々たる力作である。



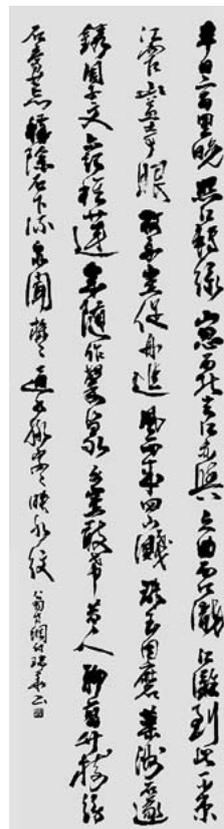
準大賞

第一部 岩本瑞華



この度、栄えある準大賞を戴き誠にありがとうございました。諸先生方のご指導のおかげと感謝しております。

今年、敢えて字数を増やし四行にしましたが思うように書けず、最後はあと十枚で止



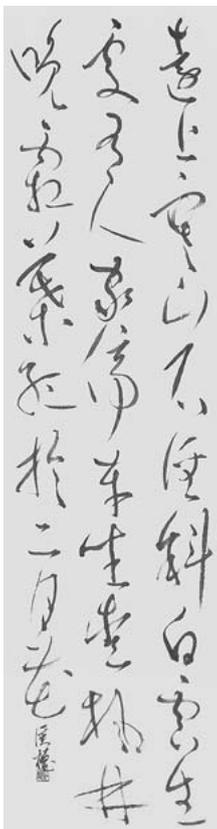
準大賞

第一部 大橋 溪 煙



この度は栄えある準大賞を賜り、身に余る光栄と感激致しております。これも偏に恩師をはじめ諸先生、諸先輩方の温かく熱心なご指導、そして教室の仲間の励ましや家族の支えがあつてこそ受賞、心から感謝申し上げます。今回、

上げると決め自分を追い込みました。その結果として賞を戴けたこと、初出品から三十数年、休むことなく続けられたことを大変嬉しく思います。  
今後とも続けられることに感謝をし、努力を重ねたいと思います。ご指導よろしくお願ひ致します。  
〔評〕  
手慣れた筆法で悠然と書き進む筆線は銜い無く、明度高く温雅な作を生んだ。



墨量・余白に気を配りながら、力強い線質で流れのある作品となるよう心掛けました。新しい作品に挑戦する度に書の奥深さを痛感し、もっと上達したいという思いに駆られます。この賞に恥じないよう一層努力を重ねて参りたいと思いますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。本当に有り難うございました。  
〔評〕  
穏やかな線条で流れ良く、優美にして安定感のある作。

準大賞

第一部 河口 霄華



この度は、思いがけず準大賞をいただき、大変光栄に存じます。学生の時より御指導くださっている師、また今回の受賞を私以上に喜んでくださった先輩諸氏に改めて御礼を申し上げます。

〈評〉

仕事の傍ら、書を通しての交流では、書に対する姿勢を学び、視点を拓き、充実感を味わいました。また書以外の多くの事柄を学ぶ場面ともなっており、今回の受賞は、これまで以上に研鑽せよ、とのことと存じます。本当にありがとうございます。

準大賞

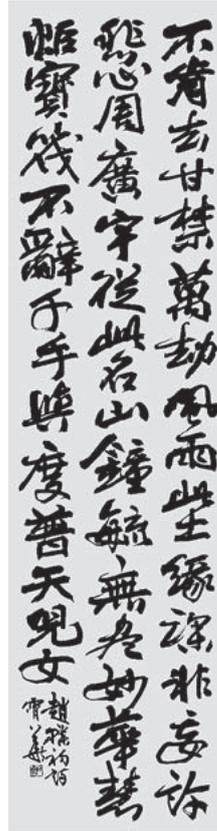
第一部 神田 閨 秀



このたびは荣誉ある準大賞を賜り心よりお礼を申し上げます。これも、ひとえに先生の御指導、ご支援のおかげと感謝しております。今回の応募の頃は、自信が持てず少し迷いがありましたが、先生より「楽しんで書けばいいのよ」との励まし

〈評〉

の言葉を頂戴し、そのとおり気楽に臨みましたら、不思議と一気に書き上げることができました。私の書の長年のファンでいてくれます、今年九〇歳になる母も「今回の作品はなかなかいいね」と言ってくれましたし、受賞の件は大変喜んでくれました。少し親孝行できたかと思っております。



準大賞

第一部 河村 抱山



この度の準大賞の受賞の知らせは、思いがけないことで、信じられませんでした。審査にあたられました諸先生、会の先輩の方々の励ましに深く感謝申し上げます。

〈評〉

日頃は勉強不足で納得の行く作品が出来ず不備の残る作品でしたが、依頼になって十五年以上になり今年は五反以上書き込みました。今回の受賞を機に気持ちを新たに精進して参りたいと思しますので、宜しく御指導のほどお願い申し上げます。

準大賞

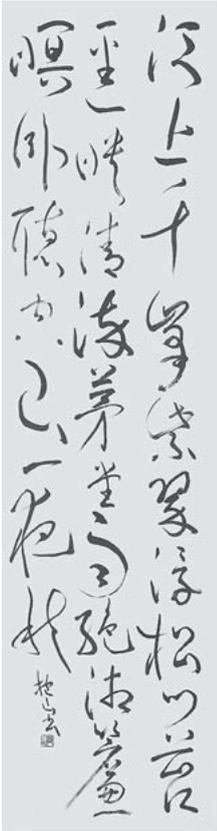
第一部 久野 天山



今年もダメだったと半ばあきらめかけていたら、突然先生よりの受賞のお知らせ、年甲斐もなく自然に笑顔になりました。これも師匠の長年にわたる懇切丁寧なご指導、先輩諸先生方の励まし、社中の皆様の応援

〈評〉

があつての受賞と心より感謝しております。今回は、準備に入るのが例年より早く、書いた枚数も少し多かったと思います。誰かが言った「練習はうそつかない。」との言葉通りだった気がします。一時は年のせいにして棒を折る所でしたが、続けてきて幸いでした。これを機会に今後は若い人達の手本になるべく精進する所存です。



準大賞

第一部 齋藤 禹 月



この度は、第六十七回中日書道展において栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。ありがとうございました。これも偏に、温かく熱心なご指導を下さいました師匠はじめ諸先生と社中の皆様、家族のお蔭と心より感謝申し上げます。

今回の作品制作にあたり、練質、文字の大小、流れ、行間の余白、墨量等に注意し、力まがりラックスして書くように心がけました。まだまだ未熟であることを痛感しております。今回の受賞を励みに、より一層古典を学び、努力精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

墨量豊かに洗練された筆致で、充実感に溢れている。最後まで気力が一貫して見事。

準大賞

第一部 清水 静 邑



この度は、準大賞という名誉ある賞を賜りまして、誠に有難うございました。思いがけない受賞に嬉しさと驚きで一杯です。これも偏に、今まで熱心に御指導下さいました師匠をはじめ、諸先生方のお蔭と、心より感謝しております。

幼い頃から書を始め、書く事が好きで今まで続けて参りました。書道を学ぶ事のできる大学で勉強も出き、「書」の魅力と奥深さを感じてきました。作品制作においては納得できるものに仕上がると、より一層の努力をし、精進して参りたいと思います。今後共、よろしく御指導の程、お願い申し上げます。

〔評〕

独自の作品構成が悠然とした運筆と相俟って、品の良い雅な空気を演出している。



準大賞 第一部 三間 恵 翠



この度は、栄誉ある準大賞を賜り、喜びと感謝の気持ちで一杯です。これも偏に恩師をはじめ、諸先生方の温かいご指導があればこそ、今日まで書の道を歩むことが出来たと感謝しております。

作品制作にあたって文字の大小・潤濁・行間の明るさに注意を払い仕上げましたが、納得のいく作品には程遠く、自身の未熟さを痛感しております。これからはこの賞に恥じないよう、より一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

力感あふれる重厚な線条で、豊かな墨量と独特の力強い渴筆に妙味を感じる。



準大賞

第一部 清水 美和子

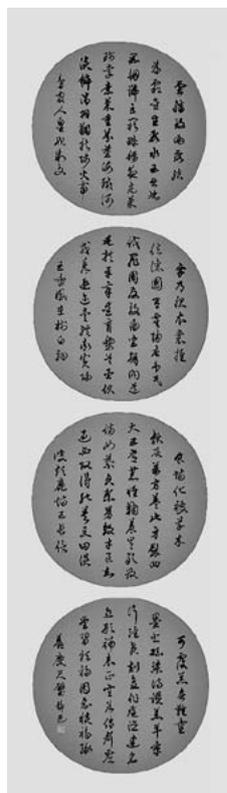
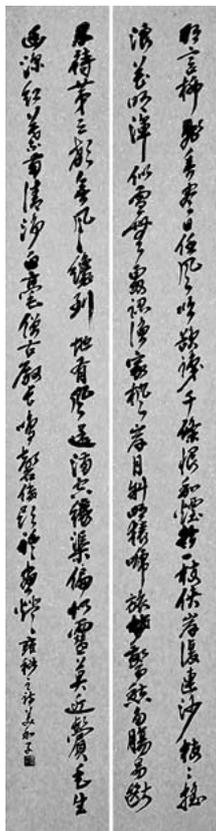


準大賞の一報に我が耳を疑った程の驚きでございます。期限直前まで墨量も足らずにご指導にそぐわないものしか書けてはおりませんでした。しかし、最後の最後に無私の境地で書いた覚えがございます。この誉れ高い賞を賜りましたのは偏

に恩師匠はじめ審査の先生方と諸先輩や門下の皆様のご導きとご厚情のお蔭と心より御礼申し上げます。これを機に普段の研鑽不足を恥じ、尚一層の本気と真剣さを持つて書に向き合う所存でございます。そして書くことを通して人生を学び、筆を持つことが出来るという幸せに感謝して精進して参ります。今後共何卒宜しくお願い致します。

〔評〕

手慣れた運筆で下への律動が心地よく、墨量の変化が明確で余白の美しい作である。



準大賞

第一部 小寺 恵 蘭



栄誉ある賞を頂き感謝の気持ちで一杯です。諸先生方のご指導、ご鞭撻に心からお礼申し上げます。

墨の濃淡、潤滑の中に人生を重ね合わせ、自分史に思いをはせる毎日です。書道との関わりが人生に厚みを与えてくれた事に只々、感謝し、自然体でこれからも書を学ぶ事の出来る幸せを感じながら精進して参ります。

今後共にご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

整然とした単体の横作品、重量感のある筆法で安定している。

準大賞

第一部 永田 桂 華



準大賞との連絡を受け、驚きが大きく暫くしてから嬉しさが湧いて参りました。これも良き師匠のご指導のお蔭と心より感謝申し上げます。作品作りの難かしさを感じているこの頃ですが、これを機に上下、左右の余白、行間、墨の濃淡、線の強弱を良く考へてから、筆を持ち紙に向うことを心掛けていきたいと存じております。

師のお言葉「継続は力なり」「楽しんで作品作りを」継続する事で一歩一歩上達する事を願います。

練習を重ねてゆき、そして作品作りが楽しく出来るようになる事を先の先の夢として精進して参ります。師匠、社中の皆様これからもご指導の程よろしくお願い致します。

〔評〕

首尾一貫した調子でまとめ上げた作。力量に富む。

準大賞

第一部 杉浦 仁 美

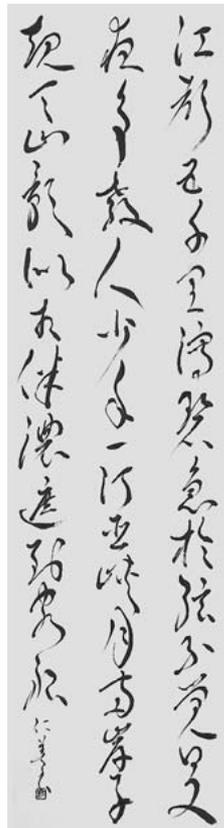


この度は準大賞という大変栄誉ある賞を賜りまして誠に有り難うございました。自分の中では遠い目標に

思えていたものが現実のものとなり、今まだ夢のようで、過分な受賞に身の引き締まる思

〔評〕

温厚で優美な線条が、一貫した流れの中で雅味を醸成し悠然と佇む。



準大賞

第一部 鈴木 白 翎

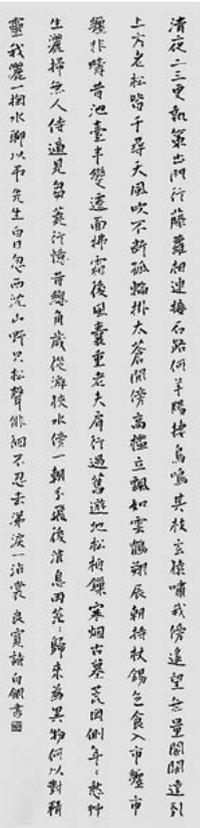
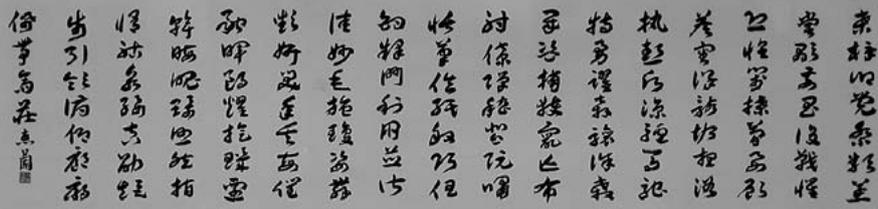


この度は、栄えある賞を賜りまして、ありがとうございます。これもひとえに、師匠の厳しくも温かい

ご指導と諸先生方の励ましのお蔭であると、深く感謝しております。

〔評〕

緻密で、かつ明るく清爽な雰囲気のある美しい作。



清夜三更執筆出門行藤蘿相連梅石路何羊腸持鳥鳴其枝玄猿啼我傍遠望無量關關遠引上方老松嗚千尋天風吹不斷孤輪掛大蒼閣傍高樓立飄如雲臨朝展朝持杖錫乞食入市餐中藥非晴昔池臺半變遠面拂霜後風囊重老夫肩行過舊遊地松柏架寒烟古巷荒園倒年：悲竹生澗持無人傳達見留：英行憶音響前歲從海樓水傍一朝手履後消息兩空：歸來為異物何以對稱靈我驚一掬水聊以弔先生白日忽而沈山只以私聲餘細不忍去深波一泊棠良實讀白翎書

準大賞

第一部 鈴木 美 翠



この度は「第六十七回中日書道展」におきまして、栄誉ある「準大賞」を賜り、身の引き締まる思いをいた

わる事への理解ある家族等、多くの方々のお蔭と改めて感謝申し上げます。今年には、還暦を迎えます。初心に返り、書道に新たな向き合って精進して参りたいと思

しております。これも偏に、温かくご指導下さいました師匠始め諸先生方、社中の皆様、そして書に携

よどみない筆致で、章法も落ち着いている充実した作。

準大賞

第一部 田 島 柳 葉



この度は第六十七回中日書道展におきまして、栄誉ある準大賞を頂き身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

した師をはじめ、選考にあたられました諸先生方のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。この受賞を励みとしてより一層努力精進してまいりたいと思

これも偏に日頃から温かくご指導下さいま

余白を生かした整齊な印象で統一感のある美し作。



準大賞

第一部 関 根 玉 翠



この度は、思いがけず栄誉ある賞を賜り、この上ない喜びと身が引き締まる思いで一杯

未熟な私を蔭ながら応援して下さった諸先生方に心より感謝しております。

書を楽しんでいる方々との出会いによって文字を書く喜びが至福の時となりました。今回、敢えて苦手な行草に挑戦しましたが

準大賞

第一部 出 川 祥 泉

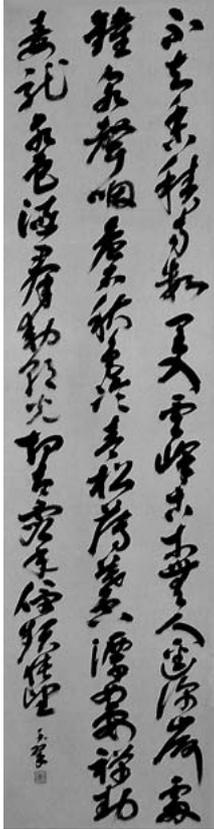


首にかけた金の鯨のメダル。その重みを感じながら、今までの私の書道人生を振り返ってみました。

思うように筆を動かせず、自暴自棄になった日。少し上手に書いて自画自賛した日。いつの間にか書道を通じて心の安定を保つように

なってきたような気がします。それでも、技術面においては自分ではあまり納得できなかったが、上手に書きたいと常に考えております。今回の受賞は、熱心に指導して下さい

一貫した調子でまとめ上げ颯爽とした雰囲気のある作。



準大賞

第一部 中井港星



この度は、準大賞という荣誉な賞を賜り誠に有難うございます。これも偏に師をはじめ諸先生方のご指導

ご支援の賜とお礼申し上げます。三十半ばで始めた中日書道展も亀のごとく遅々とした歩の中「継続は力」と信じ進めて来ました。よ

うやく先輩方の背中が少し見えて来た思いです。作品は草書主体で行間のバランス、墨量、流麗さと力強さを求め、「試行錯誤」をくり返しながら書きました。結果は思うように表現できず、力量の無さを痛感致しました。この受賞を励みに、「一層精進を重ねて参ります。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

流動感に富み、かつ全体を力強くまとめ上げた作。

準大賞

第一部 平井 三千代



この度は身に余る賞を賜りまして、ありがとうございます。ご賞の通知を頂いた時、戸惑いと驚きと、

その重さに感激のあまり言葉も出ませんでした。私は家業の関係で筆で書くことが多いこともあり、少しでもうまく書けたらとの一念で五十歳で入門させていただきました。その

私まさかこのような大きな賞がいただけようとは、夢のようでございます。ご推薦を頂きました先生方には心から御礼申し上げます。優しくご指導くださったっている師はもちろん、いつも励ましてくれている教室の仲間達、そして家族の理解に感謝致しております。今後も教室の皆さんとともに楽しく書を書き進めたいと存じます。お世話になりました皆様方に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

〔評〕

素直な線質で、しかも爽やかな流れを感じさせる作。

準大賞

第一部 中嶋 彩友



この度は準大賞の祝電をいただき、驚くとともに喜びを噛み締めしております。昨年末に第三子の誕生に

より、時間、練習の場所に四苦八苦する中、一日一枚でも続けることを目標に取り組みました。小学生の頃から二十五年、筆を持つ時

間は期待と思い通りにならない落胆を繰り返して、らせん階段を登るよう今回の賞に到達しました。これからも自分なりのペースで継続することで、書の道を歩んでいきたいと思っております。導いて下さった師、支えてくれた家族に感謝するとともに、今後とも一層精進致します。本当にありがとうございます。

〔評〕

安定した書きぶり、筆力もしつかりした作。

準大賞

第一部 平光 朱 扇



第六十七回中日書道展におきまして、栄えある準大賞を頂き、誠にありがとうございます。これも偏に、

師のご指導あつての事と、心より感謝しております。

今回の作品は、北魏の力強い線、墨量等を意識しながら取り組みましたが、課題は多く書の奥深さを実感しております。この賞を励みとし、魅力ある作品が出来るよう精進して参ります。今後とも、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

力強さと流動感をバランス良く表現した個性的な作。

春晴四月月... 教胡馬度... 江南漁獵... 楚山孤陽... 親友の在問... 一片冰心在玉壺... 彩友呈

洞裏穿雲出雲邊... 夕風繁響成秋人... 舟簫... 勢聚東海... 舟簫

皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者... 皇者...

昔... 昔... 昔... 昔... 昔... 昔... 昔... 昔... 昔... 昔...

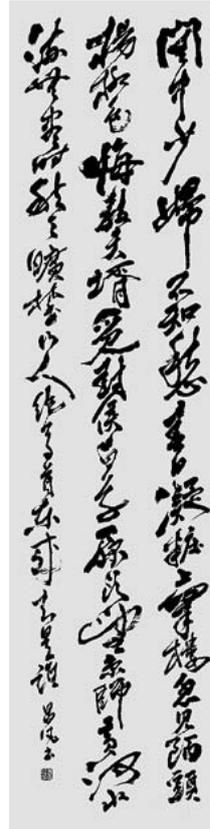
準大賞

第一部 美 希 昌 風



この度、第六十七回中日書道展に於いて、憧れ続け待ちに待った栄誉ある準大賞を受賞出来た事、本当に

嬉しく思います。これもひとえに、ご指導して下さいました先生はじめ諸先生方のお蔭と心より感謝致しております。今回の作品は、



王昌齡を題材にしました。師から「線の芸術性」を問われ続けていますが未だ出来ぬまま現在に至っております。この素晴らしい書道文化をもっと広めていけたらなと思っております。まだまだ未熟な私ですが、この賞の名に恥じぬ様一層精進して参ります。今後とも御指導の程宜しく御願ひ申し上げます。

熟達した筆遣いに重厚さと躍動感を感じさせる作。

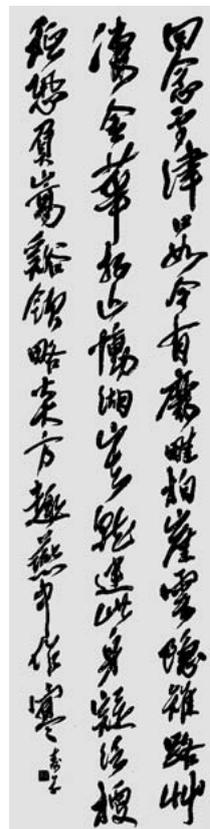
準大賞

第一部 宮 本 寿 草



この度栄ある準大賞を受賞し身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

胸が一ぱいでした。これも長年指導していただいた師を始め支えてくれた家族、共に学ぶ



教室の皆様の御蔭と幸いです。ありがとうございます。作品は王鐸の臨書ですが浅学非才ゆえ未熟な作となりました。この賞を励みに更に研鑽を積んで参りたいと思ひます。今後共御指導賜ります様よろしく御願ひ申し上げます。

理知的な文字造形で、しかも清々しさが感じさせる作。

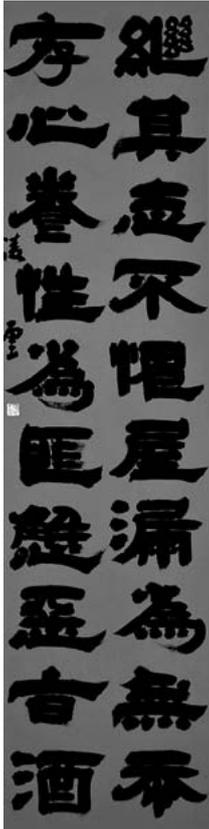
準大賞

第一部 三野島 凌 雲



この度は、準大賞の受賞、師匠先生をはじめ諸先生の御指導の賜と深く感謝申し上げます。

近年隷書作品を出版していますが、師匠から「疏なところは馬をも走らすべし。密なところは風をも透さしめず。」との鄧完白



の書精神。書構成の中で、大いに参考にするとともに、重厚で気魄に満ちた作品になるよう心掛けて行きます。また、精神性の勝った、強さを内に秘めた強靱な線を追求するにあたり、氣迫を胸の内に据えて取り組んで参ります。今後とも関係各位の皆様御指導御鞭撻の程よろしく御願ひします。

重厚で安定感に富み、スケールの大きさが魅力的である。

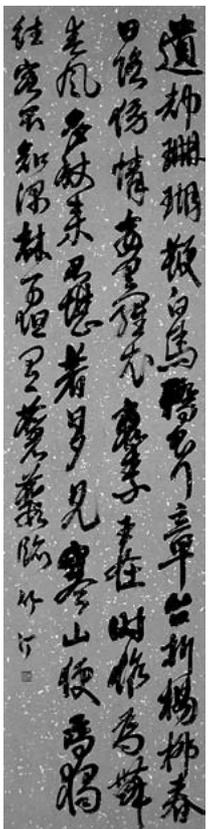
準大賞

第一部 山 口 竹 汀



この度、思いがけなく準大賞を賜り、誠にありがとうございました。これも偏に、温かくご指導下さいました先生をはじめ、先輩のお蔭と深く感謝申し上げます。

「習うより慣れろ」「継続は力なり」で、一



枚でも多く書き込めとの先生のお言葉。長年呉昌碩を勉強してきましたが、今回初めて傅山で出品させて頂きました。初心を忘れず古典を大切に少しでも精進してまいりたいと思ひますので、今後とも何卒よろしくご指導賜りますよう御願ひ申し上げます。

緩急を捉えた動きの豊かな作で氣力に満ちた作。

準大賞

第一部 渡辺 湖風



この度は伝統ある中日書道展において、準大賞という身に余る賞を賜り誠に有難うございました。幼少よりご指導いただいた恩師諸先輩先生方のおかげです。心より感謝申し上げます。そして今

は喜びと同時に身の引き締まる思いです。日々の生活の中に書の道を歩むことができる幸せに感謝して、一心に精進してゆきたいと思えます。頂いた賞に恥じぬよう努力して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕  
叙情的で華麗な動きの中にも品の良さがあふれた作。



準大賞

第二部 石黒 直子



この度は準大賞という大きな賞をいただき誠に有り難うございました。これもひとえに師のご指導のおかげと心より感謝申し上げます。また諸先生方、同門の皆様にご感謝申し上げます。

今回は枕草子の冒頭をかなで書きました。書き急ぐ悪い癖と無理な連綿で、作品を明るく立体的にという思いとは程遠い作品となっていました。

書に取り組ませて頂ける事に感謝し精進して参りますので、これからもご指導の程よろしくお願い申し上げます。有り難うございました。

〔評〕  
散らし書きの妙を生かし、全体を上手くまとめている。



準大賞

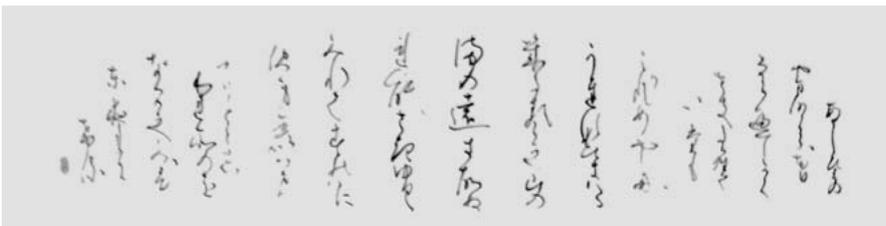
第二部 稲垣 紅春



この度は栄えある準大賞をいただき心から御礼申し上げます。これも偏にご指導下さいました諸先生方、書友の皆様方の励ましのお蔭と深く感謝いたして居ります。

優美で雅な細字かなの流麗な趣を大字かなで表現したく、古筆を基調に繊細な中にもおろからで凛とした線質を意識して品格ある作品にと努力しております。まだまだ未熟で学ぶ事は無限にあります。この賞を励みに更に精進して参りたく存じます。今後ともご指導賜りまじようお願い申し上げます。

〔評〕  
文字の大小を生かし、上手く山場を作り、まとめている。



総会・授賞式にて挨拶される伊藤昌石理事長

準大賞

第二部 稲吉 欣香



この度は、中日書道展に於いて名誉ある賞をいただき誠に有りがとうございました。幼い頃から書道を習い、子育ての一旦中断、漢字を習うものの、仮名も勉強してみたいと思いい今の師に教えをこいまして。仮名の奥深さをまざまざと知る。漢字も中途なのにと思いましたが、造形のおもしろさに目を奪われ、筆をとるのが楽しみな毎日です。その上、この様な賞をいただき、嬉しい限りです。これからも、いっそう努力をしますので、諸先生方のご指導の程よろしくお願い致します。ありがとうございます。

〔評〕  
筆がよく動き、非常に躍動感のある作品。

準大賞

第二部 水野 美保子



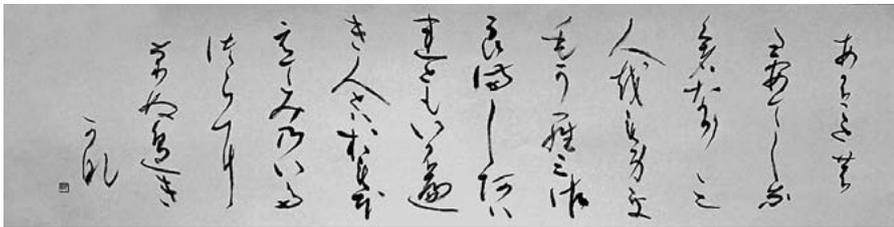
この度は、栄えある準大賞を賜りまして誠に有難うございました。身に余る光栄に驚きと感謝と共に身のひき締まる思いでございます。これも偏に熱心に温かくご指導下さいました塚田俊可先生をはじめ皆様方のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。

今回の作品は、万葉集の歌を響き合う行の流れや墨の潤濁、要白の美など考えて書きましたが、思うように出来ず勉強不足を痛感しております。この受賞を励みに精進して参ります。今後共にご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕  
キリッと引き締まった線で、切れのある作品。

準大賞

第二部 山田 有華



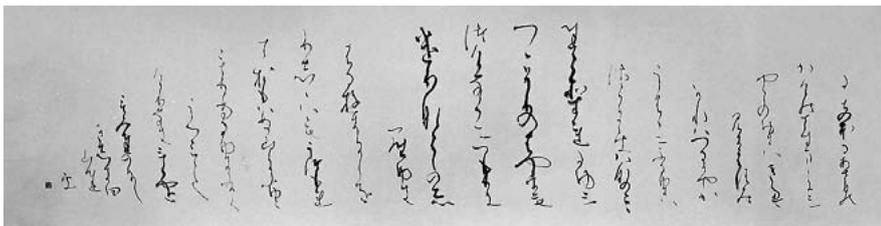
第六十七回中日書道展に於て、栄えある準大賞をいただき誠にありがとうございます。師の小さな作品に憧れ、線を引くことから始めて三十五年が経ちました。目指すものには未だほど遠く、力不足を痛感するばかりです。

一方、かなのみならず、漢字や近代詩文、篆刻などの諸先生、先輩や若い方々の作品、古筆等も鑑賞する機会が増え、楽しみも多くなり深くなった事は、思い掛けない喜びです。永きに渡り、温かくご指導、ご支援下さった先生方をはじめ社中の皆様へ深く感謝し御礼申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕  
ゆったりとした筆づかいで、暖かみのある作品。

準大賞

第二部 吉澤 有岐子



この度は名誉ある賞を賜り驚きと喜びと共に、身の引き締まる思いでございます。常日頃、師より「作品の中に起承転結を」と。作品制作をするにあたって、墨・線・形・余白を大事にしながら全体の情景を意識しています。なかなか全てが一致せず苦しいこともありすが、単調な表現にならぬように全体構成を考えての制作。作品の中に古筆の雰囲気も少しも感じていただけたら嬉しく思います。継続することの大切さと今ある恵まれた環境と良き師や家族、書友に感謝の気持ちをお忘れず、一層精進を重ね努力して参りたいと存じます。誠に有難うございました。

〔評〕  
墨量のメリハリを生かし、構成も上手く仕上げた。

準大賞

第三部 青木 榮俊



この度は第六十七回中日書道展に於きまして準大賞を賜わりありがとうございました。これも偏に師匠初

め諸先生方、諸先輩、書友の皆様のお蔭と心より御礼申し上げます。今年、中勘助の詩から縦書二行を制作致しました。制作過程で



は文字の大きさが揃ったり、墨量の変化に乏しかったりと悪戦苦闘。僕の引き出しから総出動させ締切間際に開き直って書作した内の一枚が受賞作となりました。「現代に生きる書」を目指し、自由に書作させて頂ける今の環境に感謝し、受賞の感謝を忘れずにこれからも精進致します。今後共ご指導の程お願いします。ありがとうございました。

〔評〕

溫和で量感のある線、ゆったりとしたリズムで優しさを醸し出している。

準大賞

第三部 秋田 松旭



この度第六十七回中日書道展に於て栄えある賞を頂き誠に有難うございました。これも長きに渡り熱心に

ご指導下さいました師匠と日頃何かと協力していただいている社中の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。私がこれまで書道に携



わってられました事は、家族が健康で心よく応援してくれたお蔭と幸せを感じています。この作品は遠い昔の思い出を蘇らせてもらいました。保育士時代、子供達と一緒に歌いました、「蝶々蝶々葉の葉に生まれ」と口遊み乍ら楽しく筆を走らせました。この作品は私の一生の宝になるかな。今後共宜しくご指導下さいます様お願いします。

〔評〕

沈潜した線と滋味のある書き振り、章法を心得た安定感のある作。

準大賞

第三部 安藤 春翠



この度は身に余る賞を賜り、驚きとともに大変嬉しく思っております。

き師に師事し書道の楽しさを教えて頂き、書道の奥深さを教えていただいたお蔭で、そこに



少しでも近づこうと日々精進する毎日です。これからもこの賞に恥じぬよう、先生はもちろん諸先輩方々の指導を仰ぎながら、自身身の納得できる作品を書くことができるようさらに勉強していきたいと考えております。本当にありがとうございました。

〔評〕

大きな振幅と筆力が相まって一行目から二行目へ大きく展開している。

準大賞

第三部 岩城 みつ代



この度は、準大賞を戴き有難うございました。賞の重みに身の引き締まる思いでございます。師匠、諸先輩、書友の皆様のご指導と温かい励ましのお蔭と感謝申し上げます。三十数年間、牛歩の



「ごとく、継続は力なり」を信じ「書」に向ってまいりました。賞に恥じぬよう古典の研鑽を積み、感性豊かな作品作りを精進する所存でございます。今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

大胆な筆致に寄る大字に目を奪われる。小書きの纏めが心憎い。

準大賞

第三部 内山紫泉



思いがけない電報に、今まで辛抱強く御指導下さいました師のお蔭と、心からの感謝の気持ちで一杯になりました。

草野心平の詩に引かれ、巡り合った作品で受賞でき、喜びもひとしおです。

この度の受賞を励みに、今後も書道を続けられる喜びと感謝を胸に努力でさればと思います。本当にありがとうございます。

横への展開と筆のタッチ、行間の響き合いに技量の高さを感じる。



準大賞

第三部 奥田薫苑



この度、六十七回中日展にて準大賞を賜り誠にありがとうございます。大碩教室に入門した頃は蔵鋒の意味すら知らなかった私を、今はなき先生、そして諸先生方にここまで育てて頂き深く感謝申し上げます。

又、書友にも恵まれいつも暖かく元気になる一時を有難うございます。

今回の作品は、ふるさと新潟の雪解け水が勢よく草花を濡らしている様を思い浮かべ楽しく書く事が出来ました。

まだまだ未熟な私ですが、これからも精進してまいりたいと思いますのでご指導よろしくお願い申し上げます。

明るく爽やかな線、俳句を余白の美しい作品に纏め上げた。



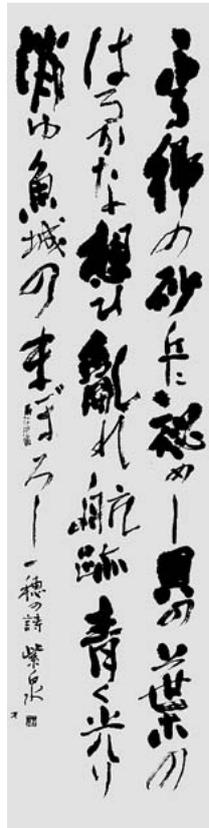
準大賞

第三部 川口紫泉



この度は、思いも依らぬ榮譽ある準大賞をいただき驚きと喜びでいっぱいです。有難うございました。書

の道を二十年位離れておりましたが息子達をご指導して下さいました先生にお願いし今日迄続



けてこられました。制作にあたり先生を始め諸先生方の丁寧なご指導のお蔭で受賞する事ができました。深く感謝しております。まだまだ技量不足の私ですが、この賞の重みに恥じない様一層努力し精進して参りたいと思います。今後共よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

墨量の濃淡と墨継の配置を工夫して、行間に流れを見せている。

準大賞

第三部 佐竹得道



この度は準大賞をいただき、誠にありがとうございます。御指導いただいた先生方や励ましを受けた墨

友に深く感謝申し上げます。今回作品制作にあたり、御指導下さった諸先生方の言葉を思い出出すことから始めました。そのうちに書道



についての基礎知識を書いた本を読み始める始末でした。また、諸先輩方の近代詩の作品をたくさん鑑賞し、作品作りの参考にさせて頂きました。そんなことをしているとスタートが遅れましたが、後は唯無心に作品制作に向かいました。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

長鋒を駆使し、潤渇疎密を巧みに配置して余白のある美しい作となった。

準大賞

第三部

楯

芳 琴



この度、準大賞という荣誉ある賞を頂き誠にありがとうございました。思えば二科の頃、受賞された皆様が、とても輝いていらつしやる姿を遠くから拝見し、憧れと同時に目標となつておりました。受賞の連絡を頂いた時は、嬉しさと賞

の重みに身の引き締まる思いが致しました。ご指導下さいました師匠、錬成会でアドバイスをくれた社中の方々に、感謝でいっぱいになりました。これを機に、初心に返り良い作品作りが出来ます様、精進して参りたいと存じます。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。

〔評〕

単体で文字の密度を高めて潤渇の文字群を作る構成で纏めている作。



準大賞

第三部

平 野 智 山



受賞の電報を受けた時はとても驚きました。この度は荣誉ある準大賞を賜りありがとうございました。ございました。

れもひとえに諸先生方をはじめ社中の方々の御陰であると、深く感謝しております。師匠からは、今回の受賞連絡と合わせて、

「まだまだ線の入り方が単調だよ。」と激励の言葉を頂きました。未熟な点は多々ありますが、この受賞を励みに今後一層の精進をして参りたいと思います。また、書道界や書道文化の発展に少しでも貢献できるように努力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

大きな運腕から生れる線が形となり、また流れとなつて紙面を舞う。



準大賞

第三部

北 野 春 艸



この度は、栄ある準大賞を頂き誠に有難うございました。これも偏にご指導下さいました師をはじめ、諸先生方、社中の皆様の温かいご支援のお蔭と心より感謝申し上げます。

この作品は、娘の中学三年生最後の全国合唱コンクールでの曲の詞で、その時に聴いた歌声と詞に感動し、作品に残したいと取り組みました。いざ書いてみようと、思い描くものとはほど遠く、力不足を痛感いたしました。今後は、この賞に恥じないように、古典を勉強し、一層精進してまいりたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

この作品は、娘の中学三年生最後の全国合唱コンクールでの曲の詞で、その時に聴いた歌声と詞に感動し、作品に残したいと取り組みました。いざ書いてみようと、思い描くものとはほど遠く、力不足を痛感いたしました。今後は、この賞に恥じないように、古典を勉強し、一層精進してまいりたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

多字数の素材を練度のある筆致で格調の高い作品に仕上げている。



準大賞

第四部

代 田 美 泉



この度は、栄える準大賞を賜りました事、身に余る光栄と感謝で一杯でございます。師匠はじめ愛知独立書人団の先生方に深く感謝申し上げます。「魄」の意は肉体的生命をつかさどる活力とあります。今回の作品は「魄」のもつ意を表現したいと心がけ魄を込め心を無にして書いたものです。作品は自己の生命力を燃焼させ、心の躍動を表現するよう作つていきたいと考えております。

立書人団の先生方に深く感謝申し上げます。「魄」の意は肉体的生命をつかさどる活力とあります。今回の作品は「魄」のもつ意を表現したいと心がけ魄を込め心を無にして書いたものです。作品は自己の生命力を燃焼させ、心の躍動を表現するよう作つていきたいと考えております。これからも古典の臨書を中心に尚一層精進を重ねて参ります。今後ともよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

〔評〕

遅速緩急や動静、また筆圧の変化等が自然に運筆され、心地よい。



準大賞

第四部 築山光子



この度は、思いもよらず準大賞という栄えある賞をいただき、身の引き締まる思いで一杯です。書は、子供

の頃から興味がありお稽古に通っておりました。途中、中断はしましたが淡墨の美しさに魅せられ、再び書の道に入りました。常に試行錯誤の作品作りの中での受賞は、まさに驚きと言ふ一語につきまます。今後も、気力・体力の続く限り、古典の勉強、そして良い作品作りに努力して参りたいと思っております。一層のご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

大胆なデフォルメと鋒を効かせた用筆が、白を活かした。表情も妙。



準大賞

第四部 山本裕子



この度は、栄えある準大賞を賜りまして、誠にありがとうございます。これもひとえに、熱心に指導し

て下さった先生方、愛知県独立書人団の先生方のおかげだと思っております。「言葉や漢字から感じたイメージを墨と筆で形にする。」この楽しい表現活動に夢中になって取り組めば取り組む程、その背景にある古典書の深さや素晴らしさを次々と発見し感動することができました。今後も、古典書の学習を大切にして創作していきたいと思っております。ご指導の程、宜しく申し上げます。

〈評〉

前半の大胆な構えと飛沫が効いている。それに終画の祈りが呼応。



準大賞

第五部 伊藤梅香



この度は栄誉ある準大賞を頂き、有難うございました。心より感謝申し上げます。これも偏に、長年根気

よくご指導頂きました師匠はじめ、支えて頂いた諸先輩のお蔭と心からお礼申し上げます。自分の落款印を作りたく、平成元年に先生の講座に入門、篆刻を学び始めました。方寸の世界は奥深く、迷い苦しみ続ける中、今回の印文は史記の故事から引用、強い線が出せればと心がけました。この度の受賞を励みに、更なる精進をしてみたいと思っております。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

〈評〉

小篆体を朱文に縦界線を配し疎密を生かした魅力ある作となりました。



準大賞

第五部 今井修武



この度は、第六十七回中日書道展において思い掛けなくも身に余る賞を賜り誠にありがとうございます。

た。これも偏に熱心にご指導下さる師はじめ、社中諸先輩方のご厚情のおかげと感謝し厚くお礼申し上げます。私と方寸の出合いは親族で方寸を学んだ人の影響で、退職後二〇〇七年より今の教室に通い始め今日に至っております。奥の深い方寸の世界ではまだ未熟です。受賞を機に老骨に鞭打って一層精進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

小篆に秦、漢の封泥に倣い側款良く起筆、終筆ともに良い。





準大賞（2部～5部）受賞者

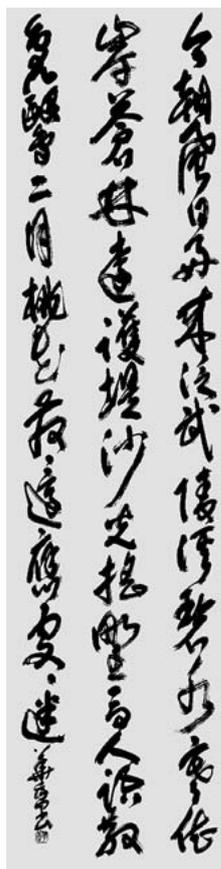


中日賞・桜花賞（1部）受賞者

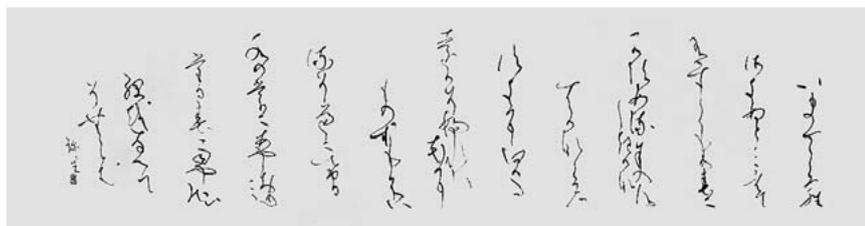


中日賞・桜花賞（2部～5部）受賞者

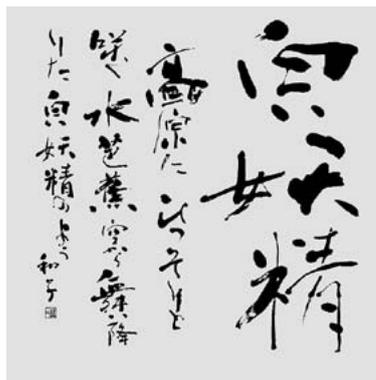
中日賞



第一部 中日賞 林華香



第二部 中日賞 伊藤弥生



第三部 中日賞 山田和子

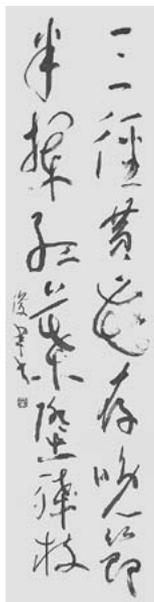


第四部 中日賞 片桐千賀子



第五部 中日賞 大原裕美

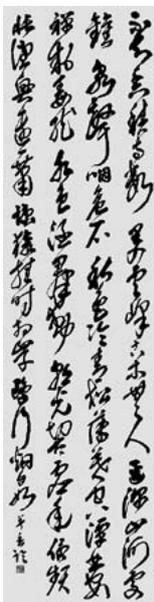
桜花賞



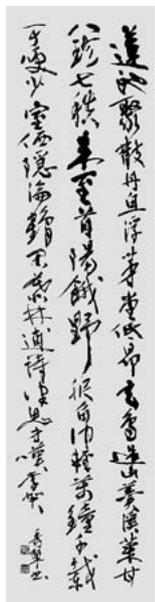
第一部 桜花賞 赤塚俊翠



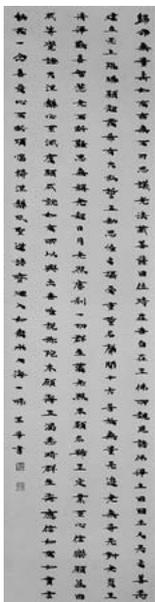
第一部 桜花賞 天野廣衍



第一部 桜花賞 飯田美香



第一部 桜花賞 池田秀翠



第一部 桜花賞 石田茜華



第一部 桜花賞 三治 涛星  
 蜂過巖花以紫蜂幼多公為喜陽幸極種族而後  
 初秋糧補由香園中陳地知能種有子亦亦涉共嘗  
 且且吾能飽白鷗飛更思歸 橘道早出

第一部 桜花賞 杉浦 薰水  
 太和十九年十一月使持節司空長樂王正錄陵夷夫人尉  
 遲為巨息牛標請三鍾石造此亦勳像區顯牛標捨  
 於今段之舞騰遊元康之境若存執生於天上諸佛  
 之所若生世界妙樂自在之蒙若有苦累即令能脫王  
 塗惡道永絕回趣一切衆生咸蒙斯福 善業

第一部 桜花賞 鈴木 溪聲  
 善業 聲善長僧 他時善善善 地地地地  
 望所願 故子信成金鐘善善善 清風善善善 妙  
 善善善 善善善 善善善 善善善 善善善 善善善  
 善善善 善善善 善善善 善善善 善善善 善善善

第一部 桜花賞 館 由津  
 獨不長懷常 春風連朝 昨夜風連連 昨夜風連連  
 昨夜風連連 昨夜風連連 昨夜風連連 昨夜風連連  
 昨夜風連連 昨夜風連連 昨夜風連連 昨夜風連連

第一部 桜花賞 田中 春光  
 小風吹白心 善善善善善  
 心善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 永井 佳楓  
 其年桂城生 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 西村 貞香  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 野々垣 煌玉  
 朝辭白雲間 千里江陵一日還 兩岸猿聲不住聲 輕舟已过萬重山

第一部 桜花賞 則竹 松慶  
 明月照床 清風拂衣 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 平野 桃泉  
 獨秀蘭棘 鼓韻於昌年 金輝誕於 聖歲現世 眷屬萬福 雲歸珠輪 疊寫 无世父母 及弟子等 來身神騰 九

第一部 桜花賞 牧野 瑞風  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 松浦 華雪  
 雨過潭萍 全蛙聲滿 四鄰海棠 真一夢 梅子欲嘗 新桂杖間 枕茶纏 不見人 殷勤木芍 藥獨看 殿餘春

第一部 桜花賞 松永 秋花  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 松本 彩雲  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 服部 瑞花  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 林 由美  
 竹樹繞去處 清涼趣有餘 鶴同吟久 晴中「懶得 茗疎酒病耐 開卷香入 荷鈿當當 憐古園畫馬 草葉野豔白 湖上泊岸老 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 福田 博芳  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一部 桜花賞 森 環翠  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善  
 善善善善善 善善善善善 善善善善善 善善善善善

第一節  
 櫻花賞  
 村上桂峻  
 山崎山崎巖峰上苑去遊春過上抱帝懷  
 又  
 仙仗玉雲車駕舞舞重下新豐  
 又  
 志遠下志遠波濤主舞重下新豐  
 又

第一節  
 櫻花賞  
 安井彩花  
 湖在波中月輝滿  
 又  
 子山知霜  
 又  
 夜多浮揚  
 又

第一節  
 櫻花賞  
 矢吹喜泉  
 此能善也  
 又  
 静  
 又  
 事  
 又

第一節  
 櫻花賞  
 山口含烟  
 不識陽關路  
 又  
 須令外國使  
 又

第二節  
 櫻花賞  
 鏡千裕

第二節  
 櫻花賞  
 小島華扇

第二節  
 櫻花賞  
 鈴木明蓬

第二節  
 櫻花賞  
 橋本富子

第二節  
 櫻花賞  
 藤原加代子

第二節  
 櫻花賞  
 子悦

第二節  
 櫻花賞  
 鈴木妙子

第二節  
 櫻花賞  
 吉村佳代子

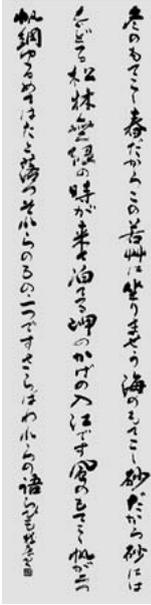
第三節  
 櫻花賞  
 今井春陽  
 鮮  
 又

第三節  
 櫻花賞  
 龜井陽  
 西  
 又

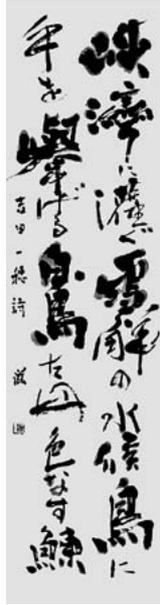
第三節  
 櫻花賞  
 小林千鶴  
 不  
 又



第三部 桜花賞 関村吟香



第三部 桜花賞 野村樹恵



第三部 桜花賞 中野滋



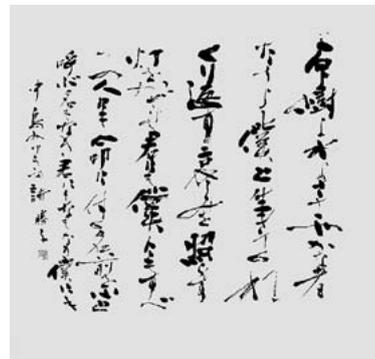
第三部 桜花賞 坂井虹輝



第三部 桜花賞 高橋杏花



第三部 桜花賞 早川蘭光



第三部 桜花賞 中村勝子



第三部 桜花賞 八木治代



第三部 桜花賞 山村光葉



第五部 桜花賞 稻垣四郷



第五部 桜花賞 石川龍泉



第四部 桜花賞 白石智舟



第五部 桜花賞 吉原愛璃



第五部 桜花賞 田中万寿



第四部 桜花賞 服部光峰

# 中日賞・桜花賞作品評

## 第一部 (漢 字) 加藤 矢舟評 山際 雲峰

### 〈中日賞〉

○林 華香

墨量豊かに疎密緩急の要を得た重厚な筆線。空間を巧みに調和させた律動感のある快作。

### 〈桜花賞〉

○赤塚 俊翠

淡墨を用い、軽妙なリズムにのった筆致。冴えた線条が美しい響きを醸し出している。

○天野 廣衍

趙之謙の筆法、結構法をよく学び、中鋒の線にも伸びがあり品格の高い作。

○飯田 美香

柔軟な運筆と墨量によって重厚で堅実な筆致。多字数四行に品格よく纏めた作。

○池田 秀翠

線の切れ味に練達の手腕を見せる。墨量の変化が効果的に調和のとれた秀作。

○石田 茜華

木簡を基調とした書法で字間、行間が美しく知的で明るさと品格を感じる作。

○石田 舜華

緩急を駆使しリズム感溢れ、温もりと高雅な風趣を備えた密度の濃い秀作。

○伊藤 谿石

漢代の隷書の古典を思わせ、

重厚で終始一貫した強靱な線質を活かした風格のある作。

○伊藤 蘭香

洗練された潤いのある筆線のリズムが、鮮やかな赤い紙に映える爽快な作。

○今井 飛泉

重厚な線質で字間行間の配字よく、最後まで統一感がある。余白も美しい秀作。

○内田 勢潭

熟達した筆致で四行にまとめ、行間の美的感覚が格調の高さを示している。

○奥田 蘇水

墨量豊かに密度と練度ある筆線。スピード感ある連線がリズムカルに展開する秀作。

○長田 裕華

鍛練を経た筆法に熟達を見る。淡々と流れる堅実な構成で対幅に纏めた風格ある作。

○春日井 栄嘉

趙之謙を踏まえ、重厚で深みのある強靱な筆線に、その習熟度の高さを見る秀作。

○加藤 彩心

熟練された筆法と、ゆったりと流れる筆線に安定感がある。格調高く、品性のある作。

○角屋 雪蘭

流暢な中でよく活動した運筆さばき、リズムよく三行をまとめ、落款で締めた快作。

○河合 秀香

重厚で躍動する筆致。文字に

大小、緩急行間美を表現した快いリズムのある秀作。

○川松 杷泉

淡墨で気負いなく練熟した筆線。律動美と立体感の溢れた爽快な作。

○鬼頭 豊寧

重厚で墨量豊かな洗練された筆致。最後まで一貫した気力は見事で秀作。

○小早川 恵祥

多字数行書を気脈一貫、伸びやかに構成する書線の美しさ。気力充実した格調の高い作。

○小山 香碧

良寛を基調に自由に躍動する筆線が旋律を奏でよう。字間の疎密を充分に生かした秀作。

○小山 峯雲

淡墨でおだやかな筆意は品よく、小気味よいリズムから清らかな詩情が漂ってくる。

○榊原 瞳

力感あふれる筆線が紙面を押し、行間と墨量の調和が作品を大きくみせた秀作。

○笹本 都和

流麗で格調高く表現され、行間がすっきりで色紙の使用も効果的である。

○三治 涛星

呉昌碩風の力強い作である。墨量の潤渇の表現も良い。

○杉浦 薫水

北魏像造記の臨書を五行にくまどめた力作である。

○鈴木 溪聲

躍動的かつ重厚な作品である。連綿の句切れが見事である。

○館 由津

筆力が充実、墨量豊かで行間を広くあげた事が効果あり。

○田中 春光

淡墨でのびやかに表現して、誇張した文字が実に力強い。

○永井 佳楓

本文三行と落款二行のまとめ方が実に見事である。

○西村 貞香

行間がよく通り古典の味がよく表現された見ごたえある作。

○野々垣 煌玉

字間・行間がよく整った作で、のびやかな隷書である。

○則竹 松慶

淡墨の墨色が良い。一文字、一文字のスケールが雄大である。

○服部 瑞花

色紙と墨色が融合し、実に格調高い作品である。

○林 由美

筆力が充実し、流動的で文字の大小の配置も良い。

○平野 桃泉

六朝楷書の特徴をよく表現し、重厚でまとまりも良い。

○福田 博芳

行間の美しさに目が止まる作。脈々と文字の連なりが魅力である。

○松浦 華雪  
北魏楷書風の力強い作品であり、筆力・墨量とも充実した作。

○松永 秋花

字幅をおさえ、行間を大胆に広くし、よく思考された秀作。

○松本 彩雲

一行一行の文字を連続し、行ごとに選を引いたのが効果的である。

○村上 桂峻

日頃よく古典を学んでいる姿勢が、作品に活かされた作。

○森 環翠

草書体を墨量豊かにし、力まぎ流麗で格調高い秀作。

○安井 彩花

行間と字間が整った作。筆力もあり、書き込まれた作。

○矢吹 喜泉

四行の行間をスッキリと表現し、単体字をよくまとめ上げている。

○山口 含烟

北魏楷書の特徴を踏まえ、筆力充実し、墨量豊かな作。

## 第二部 (かな) 村瀬 俊彦評

### 〈中日賞〉

○伊藤 弥生

行の構成に工夫され、全体的に明るい作品である。

### 〈桜花賞〉

○鏡 千裕

古典をしつかりと学んだ跡が作品にも生かされている。

○岫 悦子

筆致鋭く、渴筆部分が上手く、表現されている。

○小島 華扇

余白を上手く生かし、大らかな散らし書きの表現。

○鈴木 妙子

行の組み合わせが上手く、後半に山端を取り入り引き締った作。

○鈴木 明達

単調な行の組み合わせに見えるが、上手く仕上げている。

○橋本 富子

柔らかい線で流れるように書き、全体を上手くまとめた作。

○藤原加代子

墨の使い方が上手く、潤渴のメリハリのある佳作。

○吉村佳代子

墨量がやや多いが、暖かみのある線で上手くまとめている。

第三部 (近代詩文) 加藤 裕評

〈中日賞〉

○山田 和子

「白い妖精」の清楚感が魅力である。余白の美しい明るい作。

〈桜花賞〉

○今井 春陽

大字の大胆な動きと長鋒の持つ線の変化が作品に生彩を与えている。

○亀井 陽

シャープな線とリズム、潤渴のコントラストに妙味あり。

○小林 千鶴

小気味よいリズムが狂いな

く、三行目まで貫通して作品を纏めている。

○坂井 虹輝

柔らかさと温かさに満ちた線質がゆったりとした書き振りに調和した作。

○関村 吟香

動きを抑えた運筆と落ち着いた筆致が安定した纏まりを作った。

○高橋 杏花

墨量の豊かさが作品に力を与え、横への展開に軽妙な動きを見せた。

○中野 滋

文字の大小と潤渴のメリハリが作品にインパクトを与えている。

○中村 勝子

長鋒の持つしなやかさが、作品に優しさと清涼感を生み出している。

○野村 樹恵

小粒ながら抑揚を抑えて余白を生かした雅趣に富んだ明るい作。

○早川 蘭光

墨量潤渴を大胆に配字して、運腕大きくスケールの大きな作。

○八木 治代

行の響き合いと潤渴の変化が奥行を生み、大きく横へ展開した作。

○山村 光葉

整然とした行間と詩句の表現が重なり合って抒情を漂わせている。

第四部 (少字数) 水谷 海越評

〈中日賞〉

○片桐千賀子

迷いのない運筆が、自然な潤渴の変化と輝きを生み、堂々たる作。

〈桜花賞〉

○白石 智舟

右上部は、意表をつき謎めいているが、貫通力でよく纏め上げた。

○服部 光峰

空間の捕らえ方や、息の長さが魅力。結構にも目が行き届いている。

第五部 (篆刻刻字) 平田 蘭石評

〈中日賞〉

○大原 裕美

西周鐘鼎金文を良く理解し、余白が生かされた作となった。

〈桜花賞〉

○石川 龍泉

白文の良さを生かし刀痕がさえる良い作品となりました。

○稲垣 泗郷

小篆体を生かした安定感ある作になりました。

○田中 万寿

朱文により封泥を配した鐘鼎文がより生かされ良作となった。

○吉原 愛璃

封泥鐘鼎金文を縦長に配し刀痕も良く側款、拓も良い。



若年 (15歳~21歳) 受賞者

その他の入賞者

一科

第一部 (漢字)

特選

中野	内藤	遠山	山仲	鈴木	白井	塩澤	佐藤	笹本	米谷	後藤	小出	熊澤	木村	粥川	金田	香月	片岡	太田	内田	稲垣	市岡	青山	前野	林	長谷川	谷	鈴木	熊田	安藤	秋田
海堂	陽翠	柳恵	美結	藍光	孝心	怜華	竹苑	菜月	美穂	菜花	和香	松湖	香代子	緋音	英硯	恵里	木蘭	祥風	皇月	輝彩	敬華	芳翰	以苑	翠竹	積翠	利香	彩苑	翠庭	翠昂	夏美
西村	中西	鳥井	棚橋	田上	杉森	正徳	佐藤	佐藤	坂上	小林	越山	久米	國枝	川本	金森	加藤	片山	大橋	大城	上村	伊藤	井尾	宮原	紅林	早川	鳥本	鈴木	坂井	上水	浅野
寰海	晶聲	薫	白蓉	松苑	蕙蘭	李泉	爽翠	幸泉	智美	雪晨	和子	雪葉	青枝	柏泉	新菜	玲華	由季	紫萌	光徳	舒榮	琴流	佑果	芳琳	文彩	喜敬	誠人	彩乃	彩翠	涛香	

準特選

宇佐美	上杉	岩田	岩田	今西	稲田	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	井戸	石井	池田	池田	安藤	浅野	青木	横田	山口	山口	安田	八木	村山	宮澤	三須	松村	松原	堀	深谷	平野	原	馬場	服部	長谷川	野呂
吉恵	葉	有里	永慎	香溪	清婉	桃苑	智瑛	鴻仁	佳苑	友理	玉瑤	緑翠	夏爛	範香	春光	芝翠	杏歌	美咲	雪華	茉莉	恵染	令奈	煌泉	和敬	亮	澄秋	秀鍊	東翠	煌藍	さやか	紅雲	華谿	川有香	隆硯
内山	鶴飼	岩村	岩田	岩崎	今井	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	石田	石川	池田	井内	東	青山	脇田	湯川	山口	山口	矢島	森	村瀬	三宅	松元	松原	堀	星川	平野	樋口	濱田	服部	長谷川	萩野	
雅舟	春蕙	暎月	浩泉	翠風	翠柳	凜彩	汀華	瑞恵	歌那	文野	珠山	恵水	翠恵	溪舟	瑤琴	和生	玉波	瞬光	如泉	光華	里帆	富華	紫苑	敬子	樹香	流恵	翠苑	朝香	遊古	沙耶	梨沙	修江	緑光	智司

中村	中西	永田	中島	長坂	中川	長尾	寺尾	都築	田中	田澤	竹平	竹内	高橋	鈴木	鈴木	杉山	清水	志知	佐藤	櫻木	小林	小林	小島	小崎	桑原	栗本	久野	工藤	木村	木俣	川瀬	加村	上村	加藤	加藤	片山	寛	小栗	大村	大野	大野	大須賀
眸	瑤花	朝照	静鈴	竹華	翠山	秀麗	竹豊	弘昭	恵綏	扇華	美峰	重則	素花	游璃	翔山	鶴子	裕子	隆道	桃華	愛弓	茉永	亜也	竹苑	陽香	寛和	孝璋	深水	尚篁	翠路	紫邑	実咲	佑紀	有記	雄遠	湖舟	二菜	多恵子	桃実	瑞苑	彩	艶友	恵峰
中村	長野	中西	中島	長坂	永坂	中垣	土井	坪井	田中	多田	田崎	竹浦	滝本	高島	鈴木	杉山	杉浦	清水	澤田	佐藤	酒井	小林	後藤	小嶋	小嶋	畔柳	久野	久野	工藤	木村	川本	狩生	神谷	加藤	加藤	片岡	納村	岡崎	大羽	大野	大嶽	
鸞邑	輝泉	仲草	麻衣	瑞祥	裕華	掛溪	艶乃	華徑	大秀	榮柳	烟	仲晃	柳烟	柳烟	祥翠	洋子	芳子	美津子	蓉風	彩柳	照苑	修堂	葉光	翠芳	水蓮	知子	哲仙	生麗	雅翠	秀華	柚香	芳泉	智子	嶺花	文子	研真	祥泉	翠玉	啓雪	虹鷺	琴舟	旭華

秀逸

稲本	伊藤	伊藤	市川	磯辺	石原	石川	石川	生駒	新井	浅野	渡辺	吉成	山田	山田	山下	山口	矢野	梁川	森	三宅	南谷	水口	三木	松岡	松井	堀田	夫馬	藤田	福山	平松	平野	東山	半谷	早川	濱屋	濱地	華井	畑中	布川	新津	夏目
秀嶺	賦美	紫鳳	香雪	花泉	映奈	里秋	清秋	吉識	陽月	紫翠	敬月	香映	翠波	華苑	華月	恵理子	棠里	美舟	麗雅	夕麗	巨輝	湖美	蘭毫	悦子	真里	恵舟	二郎	恵山	和子	敦子	榮華	恵風	風雅	大樹	彩嶺	春汀	政子	千鶴	美泉	美沙	
稲吉	伊藤	伊藤	磯村	磯貝	石塚	石川	荒川	味岡			渡邊	芳村	横山	山田	山口	山口	柳田	森岡	村上	三宅	水野	三沢	松田	松浦	本田	古橋	藤森	藤井	福田	平野	平田	日榮	原	早川	濱島	花木	羽多野	長谷川	西川	成瀬	
邦子	光翠	春燕	玉園	碧雲	映彩	玲香	昌龍	華奈			水香	清苑	香雨	恭子	映翠	勝司	麗花	理榮	英子	富子	玉潤	白映	桃紅	紫鵬	早苗	緑風	紀風	優香	秀堂	祥光	城山	白蓮	香風	周作	桃風	寛城	劉城	長谷川	佳江	仲芳	



一科 (1部) 当番審査員





1 部 審査風景

**第三部 (近代詩文)**

三浦 昭子	若林 いずみ	石川 桃露	岩崎 由美	鬼頭 信子	濃沼 紀恵	佐藤 拓翔	澤木 雅人	高橋 雅人	土井 秀栖	堀脇 明代	清水 省子	梶田 汀雨	推薦	富田 武川	武夫	下村 佳風	佐藤 悠佑	小島 恭徹	九野 恭葩	岡 俊子	稲葉 裕美	千葉 弘子	加藤 昌司	横山 明子
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----	-------	----	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

**準特選**

内藤 赫子	舟戸 裕貴	水野 美舟	天谷 結花	安藤 早百合	井出 翠風	伊藤 蘭香	伊吹 紅鳳	小川 恵秀	奥村 双珠	片岡 桂苑	加藤 一枝	城殿 天祐	後藤 真理	近藤 星蘭	佐藤 朱美	高岡 眞由美	松原 教雄	横井 吟虹	安藤 絹子	石田 恵巳	伊藤 雛子	稲垣 喜由	今井 彩乃	小川 裕子	梶田 汐里	加藤 敦美	川澄 良子	河野 京子	小林 青華	佐伯 恭子	樋口 紀子	松原 教雄	横井 吟虹
-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

**第四部 (少字数)**

高田 李華	谷川 鵬竹	寺澤 明珠	中谷 愛音	林 春香	樋口 直美	深見 愛	古田 寿子	美馬 裕美	山田 高清	渡辺 千紘	浅井登志子	浅本 瞳	天木 稚佳子	天木 稚佳子	伊藤 恭子	岩土 彩花	太田 紫紅	小川 順子	小野 友香	川田 敏美	桐山 彩華	熊谷 涉	近藤 秀光	集山 明風	鈴木 桃玲	竹内 敏夫	寺西 恒流	梅野 春美	永井 睡蓮	野瀬 裕翠	彦坂 房代	福島 彩子	堀部 華舟	前田 裕子	溝口 乃佳	森下 景斗	山田 桃子	藤田 香志
-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

**秀逸**

武市 佳峰	辻 由起	永井 准子	西川 万央	樋口 薫仙	平岩 霞葉	藤井 紅萼	星 智子	山崎 白雲	余吾 友理恵	浅井 優琳	安保 育子	飯塚 ひろみ	伊藤 たつゑ	大倉 啓風	大谷 小百合	奥山 由紀	神村 啓江	鬼頭 俊夫	久世 たか子	小林 翠月	近藤 芳玉	鈴木 華歩子	田口 ゆかり	田中 夕穂	土居 雅子	戸谷 典代	二村 梅村	原野 佳子	平田 栖冬	古田 輝美	本田 美智代	御崎 勲	宮本 幸子	森下 精華	藁科 星舟
-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	------	-------	-------	-------

**第五部 (篆刻・刻字)**

石原 宗久	志賀 くに子	西川 晴江	安達 鷹	小泉 路子	鈴木 圭	竹本 景鳳	花井 紅霞	吉兼 理樹	池野 登世	磯貝 みえ子	奥村 郁子	蟹江 洋子	佐野 叶子	永江 佳子	日高 節代	石田 華峰	磯村 育治	加藤 清城	鈴木 悠里	日比野 真理	山村 千秋	浅野 政男	今井 徳弥	今村 禎邨	伊藤 茂	村瀬 幸一	高橋 彩華	神山 正嗣	長田 彩華	松岡 清	奥田 光子	柴田 真由美	矢藤 巧真	川本 美由紀	正野 千晴	鈴木 恵子	中橋 美恵子	米田 清翠	峯村 榮子	岡島 美紀	加藤 珪風	北村 義弘	柘植 和代	日高 橘扇	山本 種子
-------	--------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



二科 (1部) 当番審査員

二科

第一部(漢字)

青松	相田	梁勸賞	吉津	山崎	森	松田	松尾	前川	堀	深谷	野口	中川	永井	高久	関島	澤田	榊原	小酒	管	加藤	片野	大西	太田	大河	江上	石黒	安達	二科賞	山内	増井	前田	藤井	菱川	鈴木	嶋津	佐々	榊原	工藤				
白恋	華鷲		希代香	一慶	菜々子	沙也	亮太郎	史奈	美佐子	由季	純伽	晶子	江堂	紘華	鷲舟	皎雪	洗苑	彩花	浩然	清苑	勝斗	和枝	美子	奈那子	麗泉	佳洲	寿扇		昂波	龍泉	苔山	武	清華	智楊	木清香	悠園	芳悦					
秋田	青木		山田	森本	村瀬	松岡	牧野	本田	細川	野村	鍋田	永井	内藤	千田	杉山	佐藤	小林	木村	上手	上菜	加藤	片岡	大谷	太田	大石	今井	荒井		森本	牧野	古田	平林	西岡	鈴木	嶋田	榊原	小林					
由希恵	来夢		真如	晴泉	貴水	央真	秋陽	真奈美	京子	小鏡	珠子	玲苑	蒼月	光麗	千尋	惠順	圭翠	有里	菜々美	亞実	蘭泉	蕙苑	華子	窓雪	大地	游舟		隆司	常典	和香	眞香	眞壽	英明	有光	枝舟							
木村	絹川	神崎	川原	河田	唐橋	神谷	金子	加藤	加藤	加藤	奥山	奥村	小本	岡部	大村	大嶽	太田	大迫	大草	種田	梅村	内海	上田	岩本	岩外	岩田	今井	今井	犬飼	稲井	伊藤	伊藤	伊藤	板垣	石原	石川	池阪	家田	安福	荒木	阿島	秋元
友星	恵子	紫陽	陽苑	里菜	蘭月	克枝	夢捺	北辰	佳華	八重子	恵美子	曾実香	友貴	知郁	里沙	荀媪	苟媪	寿星	有優	圭鳳	風凜	秀香	麗泉	螢花	純子	千寿	敦子	紫華	祥悟	依子	孝子	紅葉	海吾	朋佳	圭月	智美	優伽	花蓮	春雪	花雲		
木本	木村	北原	川端	河合	神谷	上ヶ	門松	加藤	加藤	加藤	奥谷	荻野	小河	小笠	大林	大高	大島	大倉	大石	江崎	馬場	宇佐	上田	岩室	岩田	岩崎	今井	井上	居波	伊藤	伊藤	伊藤	一木	出原	石原	池末	飯塚	安藤	新井	芦田		
有理	秋波	梨紗	祥平	晃城	莉那	平香	浩子	裕也	小百合	吟香	美楓	道世	佳風	純	霞風	理沙	未紗子	萌香	真由	美樹	春蘭	清楓	清楓	玲水	心愛	玲水	竹影	彩寧	優里	柳川	秀英	秀美	香蘭	碩秀	健介	望	花織					
寺田	寺倉	辻村	玉置	田中	田中	多田	武田	高橋	高田	祖父	蘭井	住山	須藤	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	杉本	杉浦	白井	社本	島田	澁谷	柴田	宍戸	佐藤	里中	佐藤	酒向	櫻井	坂井	酒井	近藤	小西	小塚	河野	栗本	熊崎	久保	金原		
雅彦	史奈	紗希	奈緒子	昌子	麻美	紫	梨杏	未步	秀苑	江穗花	優大	真奈美	恵	静香	影花	葵峰	紗花	錦楊	恵情	美翠	花奈	春海	弘峯	智美	春月	南美	紅華	星恵	星恵	紀子	萌香	光輝	鶯雅	萩花	大樹	清芳	千佳	恭樹				
富田	寺島	寺尾	田宮	田中	田中	只野	田代	瀧澤	高橋	大門	祖父	瀬崎	鷺見	須藤	鈴木	鈴木	鈴木	杉山	杉浦	須賀	城野	下平	澁谷	柴田	芝	沢地	佐藤	佐藤	佐藤	櫻井	阪田	酒井	近藤	小林	後藤	幸村	河野	黒澤	倉橋	窪田	國島	
穂月	明子	佑至	山	千	千	留華	ひとみ	和美	美春	雅泉	江彩花	翠游	彩笑子	薫	千尋	葵峰	紗花	萬子	翠華	桃紅	玲翠	紫月	祐輔	律子	優里花	梨步	友香	青耀	朱美	風花	華香	雛	香月	鶴嬰	玉潤	玉美	公美	百合加	澄雨	有椋	泛翠	
村上	宮上	満園	溝口	溝口	右高	丸本	松原	松岡	牧野	前川	堀	堀	細川	藤原	藤田	藤田	福山	深谷	廣部	平松	平子	日比	彦坂	原	林	林	濱口	服部	服部	服部	野中	野中	蜷川	成田	中村	中根	中富	中島	中島	鳥居	戸本	
光瑤	八千代	美希	桜月	光昭	芳穂	佐和	千葉	汀蘭	里	美里	杏華	皓矢	明子	琴乃	愛乃	仁雅	央里	快風	千代子	めぐみ	未実	弘青	みさと	律翠	佳穂	里奈	知里	泰斗	和子	昭美	翠扇	友愛	あずさ	朋真	静花	冬泉	奈恵	里奈	汀葉	清景		
村上	武藤	緑川	三井	溝口	水野	参川	松向	松波	松岡	前野	本多	堀	堀	舟橋	藤野	藤田	福島	深尾	廣野	平原	平岡	日比	日榮	林	林	早川	服部	服部	服部	長谷	野々	野々	丹羽	西田	中山	中野	中根	中島	中島	長坂	豊田	
紫江	晴香	香玉	恵子	千	百	憲治	花翠	輝美	秋豊	諒子	清順	美沙	風苑	真子	孝雲	朱音	真弓	陽風	己夢	龍翠	秀花	佳月	里奈	花恋	知里	泰斗	和子	昭美	翠扇	碧洋	碧洋	淑子	春景	良嗣	清逕	和子	悠稀	結衣	霞汀			



二科 (2部~5部) 当番審査員



2部審査風景



3部審査風景

佳作  
青井佑里香  
渡辺康子  
渡辺菜月  
渡瀬大麦  
若山芝春  
若林碧雲  
吉田佳影  
吉川珠翠  
横井霞光  
山田睦己  
山田斐子  
山田一華  
山内祥子  
安田由琳  
安江稻華  
森島千智  
縦山公美  
村橋早紀

秋山千鶴子  
藁科綾花  
渡辺美喜子  
渡辺あさき  
分部幸紀  
若林良美  
吉田節子  
吉川佳子  
横井千佳  
山中信子  
山田美穂  
山田竹聲  
山口翠螢  
矢頭鍊  
安田真夕  
森島麗石  
森下聖子  
村松慎梧

大池那由  
牛田真由美  
上野里姿  
岩月清曉  
入江有里  
井上空歩  
稲山沙耶  
稲垣耀秀  
伊藤瞳  
伊藤紫暁  
伊藤紗月  
井出陽子  
居初江陵  
石田李舟  
石黒花舟  
飯田貴代子  
安福公隆  
天野清月  
浅野映華

大嶋大夢  
内山紗都子  
牛田光星  
上田珠鳳  
岩下風花  
今村美咲  
犬塚華煌  
稲積梅山  
井戸田香泉  
伊藤祥子  
伊藤華映  
伊藤華乃  
市川綾乃  
石橋菜悠  
石黒坦史  
生田大雅  
安福文香  
荒川暢秀  
阿部葉子

榊田万葉  
木下知美  
神藤華舟  
川口京子  
加藤莉奈  
加藤優奈  
加藤清峰  
加藤百合  
加藤月華  
加藤暁山  
加藤菜月  
小原菜廣  
伊藤哲  
伊藤華映  
市川綾乃  
石橋菜悠  
石黒坦史  
大藤咲紀  
大橋明日香  
大場早苗  
大谷はるか  
太田三恵子

栗本萌加  
木全雪英  
木里悠乃  
河辺晴菜  
神谷恵舟  
加藤梨沙  
加藤遊紫  
加藤紫瑤  
加藤光珠  
加藤敬三  
加藤あおい  
小奈莓泉  
奥野葉月  
小笠原夢歩  
小笠原夢駿  
小笠原靖奈  
大林千晶  
大槻菜津子  
大谷梅里

野村繁子  
野田霞月  
丹羽白桜  
丹羽錦龍  
西尾松子  
新美郁人  
中村由妃  
中村恭香  
永野智子  
中嶋さつき  
中川由佳  
富田朝煙  
常盤果那  
鶴見桜花  
田原祐喜子  
谷原順子  
棚橋康子  
田中清蘭  
田中おり  
竹村藍水  
武田佳風  
竹内美翔  
武市幸恵  
瀧百華  
鈴木なつみ  
鈴木佐和子  
杉本和代  
菅楊  
新原佑美香  
清水雅子  
沢地果歩  
佐藤清峯  
桜井柚花  
阪部久翔  
酒井智穂  
近藤史菜  
小林伶奈  
小林優花  
後藤千秋  
小塚夕貴  
小塚美枝  
小島曉風  
桑原紗香

橋口紅葉  
野村香泉  
野口佳泉  
丹羽紅翠  
西垣琴翠  
西尾芳清  
成田紅翠  
中村智恵子  
長野秋蘭  
中野和陽  
中島華楓  
中川真佐子  
富田光風  
鶴見珀翠  
津坂利佳  
谷岡千信  
田中結華  
田中美景  
多田汀優  
武田涼花  
竹内萌々  
竹内雨杏  
田口静邨  
須田翔鳳  
鈴木奏華  
鈴木花菜  
杉本瑞映  
新保柳穂  
社本真依  
篠田めい  
佐野小虹  
佐々木汀安  
櫻井菜奈花  
酒井紀明  
齋藤梨月  
近藤娃歌  
小林羅文  
小林道子  
小寺清景  
樹神里佳  
小嶋舟虹  
小木曾美空

第二部 (かな)  
二科賞  
伊藤紀子

渡邊照花  
鷺野春翠  
若松佳奈  
吉田佑  
山本康貴  
山本真代  
山田祥子  
山崎聖命  
山口典子  
安田有美  
森川諒子  
毛利麻里菜  
村上庸子  
村上舟影  
水野真宏  
松林恵里奈  
松岡宏昌  
松尾白瑤  
松井咲香  
本間賀世枝  
本庄聡子  
細井真悠子  
舟橋優典  
二村大舟  
藤戸恒成  
福谷恵理佳  
深谷祐加里  
平野香雪  
比良遥菜  
速水香余  
早川真理子  
濱野和江  
馬場紅亜  
花尻亜弥  
服部美樹  
八田節子  
長谷川柳葉  
長谷川清風  
長谷川真夕  
畑佐順子  
服部芳香  
服部玲秀  
羽場美咲  
馬場桃連  
早川螢雪  
林慶将  
日下史章  
平岩清峰  
廣川瑞樹  
福田絵里奈  
藤田真理  
藤村郁花  
古瀧真名  
堀内杏樹  
本庄淑鳳  
本間淳泉  
松井泉城  
松岡大貴  
水野綾人  
三輪翠陵  
村上澄暎  
村上要子  
望月愛未  
森本久美子  
山口萌歌  
山下礼  
山之内春洋  
山本貴穂  
山本等  
吉田みづ穂  
吉原みづ穂  
脇田采藍  
渡邊香扇

佳作  
渡辺桂山  
山川節子  
森真由美  
三浦節子  
濱田清華  
中島安奈  
角田登美子  
杉浦芳子  
新郷綾音  
佐藤美泉  
小林明美  
川口和子  
小川祥翠  
江崎重子  
岩嶋はな乃  
乾乃武子  
伊藤英美  
安藤悦子  
東美千代  
安井恵  
中林則子  
增井希  
安井恵

横井富美  
水越泉聲  
平林津賀子  
馬場景子  
中村恭子  
富田順子  
田本尚子  
鈴木和子  
下里園子  
近藤佑紀  
子安孝子  
河合いく子  
鏡味洋子  
犬飼美晴  
石井陽  
浅井喜代子  
池田宮子  
石塚淳子  
尾関小夕里  
加藤シズエ  
香村千代子  
是枝信也  
坂井田幸枝  
杉浦雅子  
高須雅彩  
富岡勝恵  
中紀代子  
中村俣子  
平田賢子  
山田文子  
横田孝美

奨励賞  
安井恵  
水野直子  
濱口有以

**第三部 (近代詩文)**  
**二科賞**  
 岡本 裕鼎  
 梶田 夕貴  
 河内 裕泉  
 酒井 彩加  
 高井 舞衣  
 高橋 麗水  
 古川 春南  
 若杉 怜華  
 渡辺 宜代  
**奨励賞**  
 荒木 麻佑  
 石黒 麗月  
 市川 兼正  
 伊藤 ゆいな  
 今井 真子

大島 優里  
 大橋 紅邨  
 岡田 真奈  
 岡村 実花子  
 甲斐野美津枝  
 糟谷 永子  
 加藤 千秋  
 川口 芳雲  
 川端 麻友  
 神戸 香穂  
 北野 愛恵  
 久保 さえ香  
 桑山 有倭  
 越川 瑞江  
 小西 香織  
 古家野 弥生  
 笹井 榮春

大谷 和子  
 岡田 花音  
 岡村 仁清  
 小鹿 怜菜  
 梶里 沙子  
 片山 知恵  
 加藤 容子  
 川端 千尋  
 河村 陽水  
 木田 栄子  
 木野 瀬陽光  
 久保 田緑風  
 幸野 朱里  
 後藤 煌雪  
 小林 晴子  
 今野 成美  
 佐藤 祐也



4部審査風景

**佳作**  
 渡邊 柳泉  
 若菜 翠月  
 横井 琴泉  
 山路 白耀  
 森 曉雲  
 水野 由唯  
 松井 彩華  
 古市 柗磨  
 藤井 溪雨  
 平松 里彩  
 平澤 雲香  
 林 紅甫  
 羽根田由紀江  
 野村 貞美  
 新國 美菜  
 那須 てるみ  
 長野 史織  
 長坂 光舟  
 鳥居 壯瑠  
 遠山 詩乃  
 寺尾 青波  
 筒井 あゆみ  
 田中 杏果  
 竹中 満理奈  
 瀨邊 風馬  
 鈴木 和代

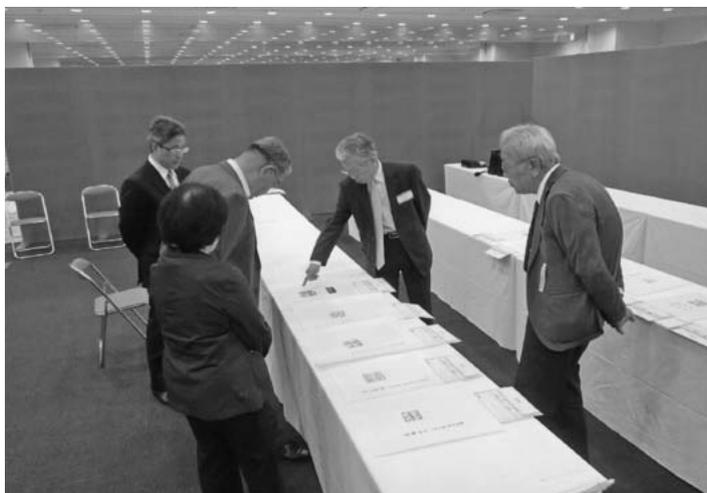
鈴木 ふゆ香  
 高橋 遥菜  
 田島 唯  
 田村 華英  
 鶴口 夏菜  
 遠松 治  
 戸嶋 欣子  
 長坂 壯修  
 中野 ひかる  
 長濱 光里  
 成瀬 三鈴  
 野田 結愛  
 長谷川 隆則  
 林 溪舟  
 坂 みゆき  
 平田 明風  
 福川 翠  
 船橋 明日香  
 堀部 よしこ  
 右高 香山  
 宮崎 あさひ  
 守山 木乃芽  
 湯之上 志保  
 横江 星花  
 渡辺 琢馬

明石 葵香  
 石井 麗  
 石田 吉弘  
 伊藤 悠馬  
 梅原 慎人  
 大谷 蘭榮  
 小川 千尋  
 小川 杏  
 柏山 瑞希  
 加藤 登紀子  
 川島 豊翠  
 河邊 奈扶美  
 切島 星海  
 栗木 美紗  
 近藤 綾乃  
 齊藤 孝貴

**第四部 (少字数)**  
**二科賞**  
 新井 ひろ子  
 長谷川 祥子  
**奨励賞**  
 板倉 里美  
 小柳 津実香  
 川部 啓子  
 菰田 真由  
 鈴木 幸枝  
 高村 笑代  
 中根 久美  
 藤原 恭子  
 安江 栄美子  
 山下 眞知代

若杉 尚哉  
 山本 圭泉  
 山田 涼奈  
 村田 琴音  
 宮島 静香  
 水谷 一子  
 松島 一平  
 堀江 朱里  
 藤澤 節子  
 福應 節子  
 廣瀬 由希菜  
 波多野 礼香  
 西村 恵  
 内藤 紅風  
 寺尾 あかね  
 土屋 眞峰  
 田中 香帆  
 高田 有紗  
 曾我 紗綾佳  
 鈴木 秀佳  
 菅原 佳月  
 漸井 彩乃  
 作田 菜月

佐藤 月菜  
 柴田 登志枝  
 鈴木 環翠  
 隅田 玉枝  
 曾我 幹雄  
 瀧澤 優香  
 田中 寿風  
 坪山 満理  
 寺嶋 美江  
 西村 克美  
 橋本 華水  
 廣浦 須寿  
 福井 美葵  
 藤井 彩雨  
 細川 厚子  
 松井 香澄  
 三浦 由美子  
 宮川 悠利  
 村瀬 紫華  
 森 清子  
 山中 清麗  
 横井 七海  
 渡辺 良枝



5部審査風景

**第五部 (篆刻・刻字)**  
**二科賞**  
 内田 明男  
 藤原 匡哉  
**奨励賞**  
 石原 久義  
 上村 将生  
 小川 次子

山本 康二  
 松本 亜弓  
 藤原 茉優  
 早川 尚美  
 中垣 純代  
 鈴木 麻友  
 高須 久美子  
 中島 春燈  
 平井 祐里子  
 寶満 祥子  
 皆川 光

貴島 小舟  
 伊藤 清一  
 岡本 多加江  
 加藤 日出男

**佳作**  
 井口 洋子  
 大塚 緑雲  
 粕川 真人  
 佐藤 一男  
 田中 澄子  
 名桐 昭彦  
 長谷川 里美  
 柳原 雅龍

平田 憲生  
 中根 未夢  
 寺本 誠  
 高木 啓志  
 白川 眞弓  
 塩川 友代  
 須田 彩華  
 高槻 和子  
 永田 正毅  
 彌田 景子  
 宮田 基次

伊藤 爲廣  
 岡 一徳  
 子安 敬頭  
 佐藤 敬頭  
 谷口 昌子  
 野口 勇夫  
 諸岡 千恵美  
 渡邊 紗智子

第六十七回中日書道展  
当 番 審 査 員

特別賞選考委員 (四一名)

渡平加栢横山村松中武加梶大伊関伊中土黒鬼樽  
 邊田藤 井際瀬下野内藤山池藤根藤林屋野頭本  
 笙蘭子英宏雲俊英玉峰 夏青仙玉昌露陽清翔樹  
 鶴石華峰軒峰彦風英敏裕舟岑游振石風山宇雲邨

横近安伊山山水原富佐加大上天松平中後黒安  
 山藤藤藤本内谷田田藤藤島田野永松島藤田藤  
 夕素秀曉雅江海凍栄慶矢緑賦白清紫藍汀玄滴  
 葉光川嶺月鶴越谷樂雲舟水草雲石雲川鶯夏水

一科審査員

第一部(漢字)

(四七名)

桜小工河上落太内岩今井伊伊荒  
 井島藤合倉合田田佐田上藤藤川  
 柳雪俊翠積深佳翠水紅紫真春恵  
 絮舟朴月山淵香聲汀溪水葉瑤風

佐後倉川神小長遠植入猪伊伊市  
 々藤橋崎谷野村藤田谷又藤藤川  
 見松高尚美蹊子栄秀霞松翠新嶺  
 枝烟堂麗舟泉鴻久穂流峰香川華

二科審査員

第一部(漢字)

(五二名)

倉亀加岡大岩伊相  
 田井藤田島田昌紫  
 珪杏渚恵妙波昌園憬  
 延華蓮鶴苑鮮園憬

黒木金緒大牛犬飯  
 川村澤方橋田飼田  
 鵬爽秀津一美游瑤  
 霄苑鴛苑氏泉華華

第五部(篆刻・刻字)

(三三名)

武浅藤中鈴艸  
 井野田村木田田  
 岳修金立美洋子  
 峰竹治強都子

岡山波角近  
 野田切谷藤  
 楠梢童玉延  
 亭心州雲子

第四部(少字数)

(八名)

廣仁津武佐小  
 澤脇田内野川田  
 凌京松幽翠琴香  
 舟華鶴汀峰風風

溝長永玉志小岡  
 口川井樹水嶋本  
 子鸞恵栄玉千桃  
 静卿子香華翠香

第三部(近代詩文)

(一四名)

築馬後岸天  
 瀬場藤本野  
 舟紀文静月  
 香行明子清

山三近倉岡  
 口橋藤橋地  
 律紅浩松紅  
 舟月乎容華

第二部(かな)

(一〇名)

松増古東中戸田田仙沢  
 澤川山川村田中口石井  
 昂春昇春清青石勢祥鴻  
 永暉史扇岳楓雲望香風

松古平林永寺武高新  
 佐田松坂尾山橋海  
 溪春采春抱桑朝秀峰  
 水華桂翠月林路箭永

第四部(少字数)

(七六名)

森松堂柴國大宇井  
 下前田府橋野上香苑  
 雪聖蒼厚妙幽光峰苑  
 華心雲実仔徑峰苑

渡三新高小川太植  
 辺上山橋嶋口田田  
 桂啓翠小真碧由錦  
 真鳳香蘭海水香舟

第三部(近代詩文)

(一六名)

中柴小伊石朝  
 島田谷藤川岡  
 祥美春静瑞仲  
 園紀苑春峰伸

村内小太伊荒  
 瀬藤寺田藤木  
 季幸須葉翠敬  
 舟代子子芳子

第二部(かな)

(一三名)

渡矢向水平坂原林長仲永千竹白佐近後小  
 辺島山野山賀川村谷葉内井藤藤藤島  
 慶潮青清青九瑞紫眞春惠晨由景晨梅彩祥  
 心香泉花雨塔芳州山水子翠美星麗鶯園風

渡吉森溝松日原林長橋中豊立白下榊近小  
 辺田口田野田比野川谷本村永松賀村原藤島  
 北美林純鶴寿清妙幽成和御鶴香汀珠晴白  
 嶺影華華鵬翠尚子岱良則風風園柳月翠汀

審査部

○部長

○副部長

(一部)

(二部)

(三部)

(四部)

(五部)

○主任

(一部・二科)

〃

〃

〃

(二部・二科)

〃

〃

〃

(二部・二科)

(二部・二科)

(二部・二科)

(三部・二科)

(四部・二科)

(五部・二科)

松永清石  
 関根玉振  
 大池青岑  
 渡邊笙鶴  
 黒田玄夏  
 横山夕葉  
 平田蘭石  
 天野白雲  
 伊藤仙遊  
 横井宏軒  
 横井宏軒  
 上小倉山  
 川積山  
 工藤尚麗  
 小島瑞柳  
 山本雅月  
 村瀬俊彦  
 加藤裕  
 武内峰敏  
 水谷海越  
 波切童州  
 原切童州  
 榊原晴夫  
 岡野楠亭

三四名  
 五七名  
 一五名  
 一五名  
 一六名  
 一六名  
 八名  
 八名  
 三名  
 三名

# 第六十七回 中日書道展を終えて

副理事長(前第一事業部長) 伊藤 仙游

第六十七回中日書道展は通常通り愛知県美術館ギャラリー・名古屋市民ギャラリー・名古屋博物館ギャラリーの三会場で開催され、皆様方の多大なご協力によって盛大に開催する事が出来ました。各指導者の先生方はじめご出品下さった大勢の会員の皆様、ご協力下さる協賛会員の皆様方に心より御礼申し上げます。

## 《書類搬入、裏打作品搬入》

四月十九日の書類搬入、五月十二日の裏打作品搬入ともに、協賛会員の皆様・委員の先生の献身的な活躍により、三、〇〇〇点余りの仕分け作業がより早くよりスムーズに終了する事が出来ました。

## 《二科審査・一科審査・特別賞選考》

二科・一科審査・特別賞選考共に作品に対する審査員・選考委員の真摯な姿勢が賞かれ、厳正公正な審査が行われました。

## 《名古屋市民ギャラリー栄》

本年度は一部(漢字)無鑑査の中日賞・桜花賞を除く約三〇〇点が展示され、入賞作に勝るとも劣らぬ迫力に、観覧者も感嘆の声をあげておられました。

## 《愛知県美術館ギャラリー》

中日書道会の中核を担う全役員作品約

一、九〇〇点(一部無鑑査を除く)が集結する本会場は、日本及び中部の書壇を代表する作家や、新進気鋭の作家の方々ばかりで、書作家として今後の指針となる作品など見応えがあり、来場された書道愛好家の方々も熱心に作品に見入っておられました。また本年も、米寿を迎えられた会員の作品を資格に拘らず顕彰する壽出品は、観覧される方々にも大変好評でした。

昨年に引き続き第六十七回中日書きぞめ展の上位入賞者七十五点も最終コーナーに陳列され、そのレベルの高さに皆さん驚いていらつしやいました。

この市ギヤラ・県美の役員展二会場で、八、〇〇〇名を越える皆様にご来場いただきました。心から感謝申し上げます

## 《名古屋博物館3Fギャラリー》

一科展・六月二十日～二十五日は九〇二点の展示(昨年比四十三点減)入場者一、六三七名、十六平方尺以内の大きな作品で、上位入賞者から入選まで全作品が陳列されました。どの作品も鎌度が高く、入賞は紙一重の差であることが実感されます。

二科展・六月二十八日～七月二日は一、四五点の展示(昨年比七十二点減)入場者一、七二五名、このうち約五〇〇名が若年層(十五歳～二十一歳)で二科賞受賞者も多く、今後ますます研鑽を積まれ、中日書道会の中核的役割を果たされんことを大



若年表彰風景

いに期待します。

本展の開催に当たりましては、役員諸先生方の多大なご努力とご協力を頂き、心より御礼申し上げます。また搬入陳列・搬出等の作業には、取扱業者の皆様の絶大なご尽力を戴き深く感謝申し上げます。

## 《第六十七回中日書道展反省会》

次第に夏本番を感じさせる七月十六日(日)名鉄グランドホテルに於いて午後五時半より、第六十七回中日書道展反省会が開催されました。毎年中日書道展終了後、次年度に向けてそれぞれ反省事項をご提出頂き、(企画委員会でも討議いたしますが)より多くの皆様のご意見、ご討議を頂くために開催しております。本年度は役員改選もあり理事・監事の先生にもご参加いただき、樽本樹郎名誉会長代行、安藤滴水名誉副会長、関根玉振理事長をはじめ七十六名のご参加を頂きました。

事務局長大池青岑先生の進行により開

会、理事長関根玉振先生より「第六十七回中日書道展では皆様のご協力も頂き、無事終了する事が出来ました。心より感謝致します。今後の中日展のために皆様の様々なご意見ご要望を伺いたい。」旨のご挨拶を頂きました。

その後伊藤仙游副理事長(前第一事業部長)より反省事項の説明があり、どの作業も次第に改良されスムーズに進んだ事、マークシート方式の導入により事務処理が迅速化した事、等の説明がありました。

続いて来年度愛知県美術館ギャラリーが施設改修により使用出来ないため、来年度の会場について後藤啓太第一事業部長より説明がありました。

この後名誉副会長安藤滴水先生より「今後の中日書道展を考慮すると、一科・二科公募の出品点数が増加するような方策が必要であり、皆さんで知恵を絞っていただきたい。今後ますます中日書道展が盛大に開催できますように、皆で頑張りましょう」と乾杯のご発声を頂き懇談会となりました、次第に和やかな空気が広がり、和気藹藹の内に閉会となりました。

第一事業部長として十年余り中日書道展に関わってまいりましたが、他のどの展覧会にも無い、反省会というシステムのお陰で年々改善され、より良い運営が実施できたと感じております。

役員・各指導者の先生方・協賛会員の皆様方また出品者の皆様には、この間大変なご協力やお世話を頂き心より感謝申し上げます。

会場が変則になりますが、来年度の中日書道展も盛大に開催出来ますよう、益々のご協力をお願い申し上げます。

## 協 賛 会 員 一 覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	(株) 呉 竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050
(株) 荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	(有) 高 誠 堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	光 文 堂 (株)	461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
(株) 一 休 園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	(株) ジェイエルシー	470-0113 日進市栄2丁目1603ヴィオラ日進1F	0561-73-3070
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	(有) 真 清 社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
ウエスティン ナゴヤキャッスル	451-0034 名古屋市西区樋の口町3-19	052-521-2121	(有) 新 泉 堂	462-0006 名古屋市北区若鶴町344-1	052-901-0514
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	(株) 青 雲 堂	446-0008 安城市今本町3-1-15	0566-98-2233
永 楽 堂	445-0854 西尾市永楽町4-10	0563-54-2053	(株) 青 柳 堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
(株) 應 天 堂	501-1172 岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200	創 源 工 房	458-0034 名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
(有) 岡本頌文堂	510-0081 三重県四日市市北町3-4	059-352-6010	(有) 荘 文 堂	478-0017 知多市新知宝泉坊30-1	0562-55-0517
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	(株) 大 玄 堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
魁 盛 堂 (株)	451-0063 名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211	大 同 印 刷 (株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	0583-92-2345
開明株式会社	336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
加藤長寿堂	453-0801 名古屋市中村区太閤1-16-23	052-452-4751	(株) 長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有) 伽 藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(株) 川口春霞堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024	名古屋ホウコドウ	462-0828 名古屋市北区東水切町2-28-8	052-915-1798
(有) 菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	西川堂森表具店	491-0859 一宮市本町4-23-11	0586-72-3629
(有) 吸 月 堂	462-0844 名古屋市北区清水2-2-2	052-931-6948	美 創 堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
(株) 玉 蘭 堂	150-0002 東京都渋谷区渋谷1-12-11 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886	平野筆墨堂(株)	463-0021 名古屋市守山区大森1-2701	052-798-6651
(株) 金 工 堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	(株) 墨 運 堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863	松 屋 紙 店	475-0866 半田市清水北町63	0569-21-2572

# 平成二十九年 度

## 第二回 理事会 総 会・新理事会

五月二十一日(日)  
六月十八日(日)

於 本 部  
於 ウエステインナゴヤキャッスル

庶務部長 天野 白雲

### 第二回理事会開催

本年度第二回理事会が去る五月二十一日に開催されました。理事二十四名の出席で、伊藤理事長の挨拶に始まり、以下に示しました議案について終始熱心にかつ慎重に審議され、すべて承認されました。

当日の議案は以下の通りです。

- (1) 平成二十八年 度事業報告に関する件
  - (2) 平成二十八年 度収支報告に関する件
  - (3) 財産目録の承認に関する件
- 第二号議案  
理事・監事の選任に関する件
- 第三号議案  
平成二十九年 度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件



第2回理事会

### 平成二十九年 度総会開催

平成二十九年 度公益社団法人中部日本書道会総会は、ウエステインナゴヤキャッスルを会場として五八三名(委任状提出者二三八名)の出席をいただき、開催されました。伊藤昌石理事長の挨拶から始まり、以下の議案について慎重かつ熱心に審議が行われ、承認されました。

- 第一号議案 平成二十八年 度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 平成二十八年 度収支決算書の承認に関する件
- 第三号議案 財産目録の承認に関する件 (監査報告)
- 第四号議案 理事・監事の選任に関する件



総会風景

### 新理事会開催

内容 新理事長・新副理事長の選出  
本部事務局(局長・企画委員長・部長)及び支部長の承認

総会終了後新たに選任された理事による新理事会が開催され、慎重審議の結果新理事長に関根玉振先生を、副理事長に伊藤仙游先生・岡野楠亭先生・松下英風先生を選出いたしました。加えて本部事務局(事務局長部長)及び支部長が承認されました。

# 平成二十九年 度 公益社団法人 中部日本書道会

## 総 会 議 案 書 (抜粋)

日 時 平成二十九年六月十八日(日)・場 所 ウェスティンナゴヤキャッスル

第一号議案 平成二十八年 度 事業報告書の承認に関する件

### 平成二十八年 度 事 業 報 告

I 書道普及振興事業(公益目的事業1)

1 展覧会事業

(1) 第六回中日書道展  
会場及び期間

愛知県美術館

平成二十八年六月八日(水)～六月十二日(日)

名古屋市民ギャラリー栄

平成二十八年六月七日(火)～六月十二日(日)

電気文化会館

平成二十八年六月七日(火)～六月十二日(日)

名古屋博物館

平成二十八年六月十四日(火)～六月二十六日(日)

出品点数

四、四一〇点

2 公開講座事業

第二十回公開講座

日 時 平成二十八年十一月六日(日)

会 場 電気文化会館 イベントホール

受講者 一三三名

テーマ 「私のかからもの」

講 師 理事 波切 童州 先生

テーマ 「書道散歩」

講 師 理事 加藤 裕 先生

3 講演会、講習会、研究会事業

(1) 第二十八回書道教育研修会(実技講習会)

日 時 平成二十八年十月十日(月・祝)

会 場 名古屋国際センター

内 容

① 漢字・仮名講座

書道講話 理事 大池 青岑 先生

漢字「――臨書を楽しむ――」 評議員 上小倉積山 先生

仮名「――かなの古筆の学習法――」 理 事 山本 雅月 先生

参加者 五六名

外国人書道研修会

書道講話 副理事長 関根 玉振 先生

・ハガキを書く ・カラーマッピング

・大字に挑戦

(2) 講演会 参加者 四五名

① 本部

平成二十九年二月十二日(日) 名古屋観光ホテル

演 題 「弘法大師の書――灌頂歴銘――」

講 師 一般財団法人 澄懷堂美術館

学芸主任 井後 尚久 先生

参加者 四二〇名

② 一宮支部

平成二十九年二月五日(日) 一宮スポーツ文化センター

演 題 「三体千字文から得た勉強方法」

――楷・行・草から定義発見――

講 師 理事長 伊藤 昌石 先生

参加者 一五二名

③ 半田支部

平成二十九年三月二十六日(日) 半田市福祉文化会館

演 題 「三体千字文から得た勉強方法」

講 師 理事長 伊藤 昌石 先生

参加者 八二名

④ 東三河支部

平成二十八年七月三日(日) ホテルアソシア豊橋

演 題 「書業五十年」

講 師 名誉会長代行 樽本 樹郎 先生

参加者 九三名

⑤ 西三河支部

平成二十九年三月四日(土) 刈谷市産業福祉センター

演 題 「歴史がつなぐ三河の心」

講 師 刈谷市副市長 川口 孝嗣 氏

参加者 一二二名

⑥ 濃飛支部

平成二十八年七月三日(日) 中津川にぎわいプラザ

演 題 「一から始まる基本楷書」

講 師 副理事長 関根 玉振 先生

参加者 四四名

⑦ 岐阜支部

平成二十八年九月十八日(日) 岐阜会館

演 題 「美濃和紙とその歴史と伝統の技について」

講 師 美濃市産業振興部紙業振興課長 須田 亜紀 先生

参加者 六〇名

(3) 半田支部公開書道研修会

平成二十八年十月二十三日(日)

クラシテイ半田 市民交流プラザホール

内 容 「蘭亭序について」書法解説及び実技指導

講 師 副理事長 関根 玉振 先生

(2) 第六七回中日書きぞめ展  
会 期 平成二十九年三月十九日(日)～二十日(月・祝)

① 第四五回一宮支部学生書道展

会 場 一宮スポーツ文化センター

出品点数 三、六一七点

② 第五二回半田支部学童書道展

会 期 平成二十八年七月二十三日(土)～二十四日(日)

理事 横井 宏軒 先生  
 評議員 上小倉積山 先生  
 参加者 三八名

II 福祉事業(公益目的事業2)  
 二〇一六年チャリティー愛の募金  
 ——しあわせ薄い人々に愛の手を——  
 寄託 中日新聞社会事業団へ二百万円  
 東海テレビ福祉文化事業団へ百万円

III その他の事業(相互扶助等事業)

1 書道に関する調査研究および発表  
 調査研究及び発表

2 書道教育者養成及び普及事業

(1) 書道教育者の推薦制度 七件

(2) 外国研修旅行補助 二件

3 展覧会事業

(1) 第二五回記念寿書展

会 期 平成二十八年十一月一日(火)～十一月六日(日)

会 場 電気文化会館 東西ギャラリー

出品点数 一九九点

(2) 中日支部展・支部選抜展

① 一宮支部

第六二回支部書道展

会 期 平成二十八年十一月二十六日(土)～二十七日(日)

会 場 一宮市スポーツ文化センター

出品点数 二二五点

② 半田支部

第五〇回記念半田支部展

会 期 平成二十九年三月二十五日(土)～二十六日(日)

会 場 半田市福祉文化会館

出品点数 一六〇点

③ 西三河支部

第四九回西三河支部会員展

会 期 平成二十九年三月一日(水)～五日(日)

会 場 刈谷市美術館

出品点数 一七八点

④ 東三河支部

四〇周年記念東三河支部展

会 期 平成二十八年六月二十八日(火)～七月三日(日)

会 場 豊橋市美術博物館

出品点数 一二六件

⑤ 東三河支部選抜展

会 期 平成二十九年二月七日(火)～十二日(日)

会 場 豊橋市民文化会館  
 出品点数 七六件

⑥ 濃飛支部展

会 期 平成二十八年七月一日(金)～三日(日)

会 場 中津川市にぎわいプラザ

出品点数 六〇点

⑦ 北勢支部

北勢支部展

会 期 平成二十八年七月十五日(金)～十七日(日)

会 場 四日市市文化会館

出品点数 八七点

⑧ 中南勢支部

三〇周年記念支部展

会 期 平成二十九年二月一日(水)～五日(日)

会 場 三重県立美術館(県民ギャラリー)

出品点数 八八件

⑨ 岐阜支部

第二二回岐阜支部展

会 期 平成二十八年九月十六日(金)～十八日(日)

会 場 岐阜市民会館

出品点数 二九五点

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部

平成二十八年十月二十三日(日) 有松校会館

内 容 「有松絞体験」

参加者 三六名

② 北勢支部

平成二十九年二月五日(日) じばさん三重

内 容 「篆刻事始め 作品中に生かせる印」

講師 三重県書道連盟参与 小川 匠石 先生

参加者 六〇名

(2) 講演会

① 北勢支部

平成二十八年七月十七日(日) 四日市市文化会館

演 題 「弘法大師の書」

講師 一般財団法人 澄懷堂美術館

学芸主任 井後 尚久 先生

参加者 一一〇名

② 中南勢支部

平成二十八年十月二日(日)

演 題 「外食産業の始まりの頃  
 ——食文化について——」

講師 井村屋元社長 井村 直瑛 氏  
 参加者 六二名

(3) 研究会

① 西三河支部

平成二十九年三月十九日(日) 安城市文化センター

中日書道展 作品研究会

参加者 一一〇名

(4) 研修会

① 本部(史跡探訪研修旅行)

平成二十八年八月三日(水)～四日(木)

「奥飛騨の旅」

「光記念館」「上高地」「飛騨古川市散策」他

参加者 一〇〇名

② 一宮支部

平成二十八年十月三十日(日)

中濃の旅 「日比野五鳳記念美術館」「古今伝授の里  
 フィールドミュージアム」「美濃和紙の里会館」

参加者 一一一名

③ 半田支部

平成二十八年十一月十三日(日)

美濃・郡上八幡「郡上八幡散策」「洞戸円空記念  
 館」「美濃和紙の里会館(紙漉き体験)」

参加者 四〇名

④ 西三河支部

平成二十八年十月三十一日(月)

山梨「久保田一竹美術館」「忍野八海」

参加者 三八名

⑤ 東三河支部

平成二十八年十月二十三日(日)

有松「有松絞り資料館」

参加者 三六名

⑥ 濃飛支部

平成二十八年十一月二十日(日)

南知多・美浜町「杉本美術館」「アトリエぜんきゅう」

参加者 二三名

⑦ 北勢支部

平成二十八年十一月十三日(日)

「斎宮歴史博物館」「神宮美術館」

参加者 三六名

⑧ 中南勢支部

平成二十八年五月十五日(日)

奈良「杉岡華邨美術館」「奈良国立博物館」

参加者 三七名

⑨ 岐阜支部

平成二十八年十一月二十九日(火)  
奈良「奈良国立博物館」「酬恩寺」「二休寺」  
参加者 三〇名

5 福利厚生事業

① 塾総合保険

五五件 一、八六六名

② 会員交流会

会員交流ボウリング大会  
平成二十八年十二月十一日(日) 星ヶ丘ボウル  
参加者 九二名

老人会色紙贈呈

半田支部

6 半田支部

平成二十八年八月十九日(金)  
寄贈数 七〇〇点

寄贈先 半田市・武豊町・阿久比町・東浦町・美浜町・  
南知多町の各役場から長寿者に贈呈

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。  
・会員章(門章・襟章)の交付

8 広報活動事業

中日会報

一八〇号 平成二十八年四月一日付け発行  
一八一号 平成二十八年七月一日付け発行  
一八二号 平成二十八年十月一日付け発行  
一八三号 平成二十九年一月一日付け発行

(2) 支部会報

① 一宮支部

四十五号 平成二十八年六月一日付け発行

② 半田支部

七十五号 平成二十八年四月十日付け発行  
七十六号 平成二十八年十月十日付け発行

③ 西三河支部

七十一号 平成二十八年六月一日付け発行  
七十二号 平成二十八年十二月一日付け発行

④ 東三河支部

六十八号 平成二十八年十月一日付け発行

⑤ 濃飛支部

六号 平成二十九年二月一日付け発行

⑥ 北勢支部

六号 平成二十九年三月十五日付け発行

⑦ 岐阜支部

四十七号 平成二十八年七月二十九日付け発行  
四十八号 平成二十九年二月二十日付け発行

(3) ホームページ

9 随時更新  
資料文献収集保存事業  
継続中

10 書道功労者等顕彰事業

表彰期日 平成二十八年六月十二日(日)  
会 場 ウエスティンナゴヤキャッスル

平成二十七年功労者として、次の八氏に表彰状なら  
びに感謝状を贈呈した。

表彰状 鬼頭 翔雲

感謝状 岡本 苔泉、榊原 晴夫、中村 立強、  
横山 夕葉、故青木 清濤、丹羽 常見、  
世古口 太虚、平野 公慎

11 福祉事業

一宮支部より中日新聞一宮総局へ十万円  
半田支部より中日新聞半田支局へ十万円  
西三河支部より中日新聞岡崎支局へ十万円  
東三河支部より中日新聞豊橋総局へ十万円  
濃飛支部より中日新聞中津川通信局・萩原通信局へ各五万円  
北勢支部より中日新聞四日市支局へ十万円  
中南勢支部より中日新聞三重総局へ十万円  
岐阜支部より中日新聞岐阜支局へ十万円

IV 管理業務

1 総会

平成二十八年六月十二日(日)  
ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催  
次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十七年事業報告書の承認に関する件  
第二号議案 平成二十七年収支決算書の承認に関する件  
第三号議案 財産目録の承認に関する件  
第四号議案 定款および諸規定の改定に関する件

2 理事会

第一回理事会

平成二十八年五月十五日(日) 本部にて開催  
次の議案について審議、原案通り議決した。

第一号議案 平成二十八年総会提出議案について  
(1) 平成二十七年事業報告に関する件  
(2) 平成二十七年収支報告に関する件  
(3) 財産目録の承認に関する件  
(4) 定款並びに諸規定の改訂に関する件

第二回理事会

平成二十八年七月二十日(月・祝) 本部  
平成二十九年三月二十日(月・祝) 本部

平成二十九年二月十二日(日)  
名古屋観光ホテルにて開催  
次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十九年事業計画(案)に関する件  
第二号議案 平成二十九年予算(案)に関する件

(1) 収支予算書

正味財産増減予算書

(2) 事業区分後の正味財産増減予算書

(3) 資金調達及び設備投資の見込みについて

(4) 評議員の承認に関する件

第三号議案 正会員の承認に関する件

第四号議案 正会員の承認に関する件

第五号議案 審査会員の承認に関する件

第六号議案 新役員選考委員選出に関する件

評議員会

平成二十九年二月十二日(日) 名古屋観光ホテルにて開催  
次の事項について報告をした。

(1) 平成二十九年事業計画書について  
(2) 平成二十九年収支予算書について  
(3) 正会員・審査会員の承認について

企画委員会

(1) 第一回企画委員会  
平成二十八年四月十日(日) キャッスルプラザ

(2) 第二回企画委員会  
平成二十八年五月十五日(日) 本部

(3) 第三回企画委員会  
平成二十八年六月十二日(日)

(4) ウエスティンナゴヤキャッスル  
第四回企画委員会  
平成二十八年七月十八日(月・祝) 名鉄グランドホテル

(5) 第五回企画委員会  
平成二十八年九月十一日(日) 本部

(6) 第六回企画委員会  
平成二十八年十月十日(月・祝) 本部

(7) 第七回企画委員会  
平成二十八年十一月六日(日) 本部

(8) 第八回企画委員会  
平成二十八年十二月四日(日) 本部

(9) 第九回企画委員会  
平成二十九年一月五日(木) 賀城園

(10) 第一〇回企画委員会  
平成二十九年二月十二日(日) 名古屋観光ホテル

(11) 第一一回企画委員会  
平成二十九年三月二十日(月・祝) 本部

第2号議案 平成28年度収支報告書の承認に関する件

平成28年度 収支計算書

(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

科目	決算額(A) 円	前年度決算額 円	予算額(B) 円	差異(A)-(B) 円	説明
1. 事業活動収支	73,701	7,875	73,500	201	3000万×0.245%
① 事業活動収支	249,882	139,642	250,000	△118	5300万×0.02-0.01%、国債利息
② 1. 事業活動収支	1,318,900	12,870,000	12,936,000	△66,000	評議員以上11,000円×1199名
③ 2. 事業活動収支	16,947,000	17,297,000	18,480,000	△1,533,000	正会議員7000円×242名
④ 3. 事業活動収支	2,190,000	2,355,000	2,640,000	△450,000	正会議員5000円×438名
⑤ 4. 事業活動収支	1,075,000	1,100,000	1,150,000	△75,000	協賛会員25000円×43件
⑥ 5. 事業活動収支	33,401,000	33,622,000	35,206,000	△1,805,000	協賛会員25000円×43件
⑦ 6. 事業活動収支	88,000	77,000	0	△11,000	評議員以上11,000円×8名
⑧ 7. 事業活動収支	476,000	588,000	0	△112,000	正会議員7000円×68名
⑨ 8. 事業活動収支	115,000	215,000	0	△100,000	正会議員5000円×23名
⑩ 9. 事業活動収支	679,000	1,005,000	0	△326,000	協賛会員25000円×0件
⑪ 10. 事業活動収支	890,000	505,000	770,000	△120,000	出品料・祝賀会費
⑫ 11. 事業活動収支	6,077,000	5,382,000	6,501,500	△424,500	支部別内訳参照
⑬ 12. 事業活動収支	5,667,050	5,779,850	5,778,000	△110,950	支部別内訳参照
⑭ 13. 事業活動収支	380,000	276,000	375,000	△99,000	支部別内訳参照
⑮ 14. 事業活動収支	3,025,500	3,031,000	2,236,000	△789,500	支部別内訳参照
⑯ 15. 事業活動収支	187,000	216,500	200,000	△130,000	支部別内訳参照
⑰ 16. 事業活動収支	175,000	175,000	250,000	△75,000	支部別内訳参照
⑱ 17. 事業活動収支	242,240	262,500	350,000	△107,760	55件1866名
⑲ 18. 事業活動収支	292,200	267,000	300,000	△107,800	92名
⑳ 19. 事業活動収支	246,000	286,000	300,000	△54,000	2000円×123名
㉑ 20. 事業活動収支	9,000	42,000	75,000	△66,000	3000円×101名 (有料3名)
㉒ 21. 事業活動収支	47,859,800	48,225,400	48,055,000	△195,200	中日展収入内訳参照
㉓ 22. 事業活動収支	5,808,940	5,880,160	5,824,000	△15,060	中日展収入内訳参照
㉔ 23. 事業活動収支	4,314,001	4,390,000	4,500,000	△185,999	400円×約6000点(膨張率差引)
㉕ 24. 事業活動収支	16,136,000	17,559,000	15,500,000	△686,000	
㉖ 25. 事業活動収支	2,055,500	2,354,500	2,639,500	△573,950	
㉗ 26. 事業活動収支	93,345,031	94,311,920	93,493,550	△148,469	支部別内訳参照
㉘ 27. 事業活動収支	50,000	0	0	△50,000	
㉙ 28. 事業活動収支	92	1,179	1,500	△1,408	
㉚ 29. 事業活動収支	310,400	1,050,000	400,000	△99,600	一宮芸術祭交付金
㉛ 30. 事業活動収支	97,000	380,810	345,000	△248,000	備品貸出
㉜ 31. 事業活動収支	413,492	1,583,859	746,520	△333,008	
㉝ 32. 事業活動収支	128,212,106	1,306,670,426	1,297,659,550	△1,567,954	
2. 活動収支	954,032	1,336,932	1,486,000	△163,968	支部事業費含む
① 1. 活動収支	926,366	949,302	763,000	△163,366	中日展、寿展受付等
② 2. 活動収支	1,111,974	1,369,456	1,044,000	△67,974	各種贈礼
③ 3. 活動収支	7,012,294	7,857,894	7,447,000	△434,700	各種品代
④ 4. 活動収支	314,240	477,061	539,000	△244,760	作業時交通費、タクシー、バス等
⑤ 5. 活動収支	10,318,380	8,309,852	10,536,676	△57,620	作業時長時間費等
⑥ 6. 活動収支	8,309,852	7,729,008	7,729,300	△55,052	作業時長時間費等
⑦ 7. 活動収支	673,962	877,128	956,100	△282,532	半田支部事業光熱費
⑧ 8. 活動収支	9,635,263	8,077,128	9,485,000	△60,263	半田支部事業光熱費
⑨ 9. 活動収支	22,200	72,680	82,000	△89,974	会場使用料
⑩ 10. 活動収支	1,068,726	650,542	1,896,700	△829,172	一宮支部事業支払会費
⑪ 11. 活動収支	7,310,587	7,946,664	7,362,000	△574,143	看取作成等
⑫ 12. 活動収支	0	0	0	△0	愛の基金による寄託 (ほか)
⑬ 13. 活動収支	350,000	410,000	3,846,000	△670,000	外国研修補助
⑭ 14. 活動収支	5,517,022	3,483,613	3,870,000	△64,010	新刊 楽報紙広告
⑮ 15. 活動収支	3,483,613	3,880,000	10,000	△64,010	楽報紙広告
⑯ 16. 活動収支	400,000	499,790	566,000	△92,644	塾保険等
⑰ 17. 活動収支	501,990	7,508,800	7,519,000	△92,644	若年層・大作展作品
⑱ 18. 活動収支	885,356	2,904,198	1,808,000	△63,255	若年層・大作展作品
⑲ 19. 活動収支	273,245	290,057	336,500	△63,255	若年層・大作展作品
⑳ 20. 活動収支	0	0	0	△0	若年層・大作展作品
㉑ 21. 活動収支	2,300,562	3,068,650	2,880,000	△59,438	若年層・大作展作品
㉒ 22. 活動収支	15,442,810	17,549,882	15,500,000	△62,752	若年層・大作展作品
㉓ 23. 活動収支	2,212,428	2,381,720	2,736,000	△62,752	若年層・大作展作品
㉔ 24. 活動収支	86,492,487	89,435,810	89,253,550	△2,763,013	若年層・大作展作品
㉕ 25. 活動収支					事業別一覽参照
㉖ 26. 活動収支					

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1. 特定資産増取収入	0	0	125	808	0	0	1	0	934
2. 受取寄付金	0	50,000	0	0	0	0	0	0	50,000
3. 普通預金受取利息	0	0	64	0	6	0	0	3	78
4. 暫行不払手帳収入	0	0	3,560	0	0	0	0	0	3,560
5. 負担金収入	97,000	0	0	0	0	0	0	0	97,000
6. 雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	97,000	50,000	3,749	808	6	0	1	3	151,572

積立金取崩	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1. 支部別内訳	0	0	0	100,000	0	210,133	0	0	310,133
2. 支部別内訳	111,230	59,586	24,025	150,100	77,230	140,314	103,680	35,132	701,297
3. 研究会費	0	0	8,185	128,246	0	48,998	0	0	318,712
4. 支部別内訳	1,244,172	553,764	409,022	2,518	245,620	361,523	285,507	328,774	3,430,900
5. 支部別内訳	1,748,508	1,359,163	2,555,639	0	0	0	0	0	5,663,310
6. 支部別内訳	225,763	486,669	1,095,938	1,336,599	107,627	219,209	405,009	473,572	4,330,386
7. 支部別内訳	0	130,140	0	0	0	0	0	0	130,140
8. 包蔵展費	350,000	0	0	0	0	0	0	0	350,000
9. 普通振替事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 周年記念事業費	1,079,500	148,000	0	0	285,120	0	0	0	1,466,880
11. 支部別内訳	4,759,173	2,745,507	4,212,870	2,304,751	615,235	1,061,704	1,048,536	1,161,336	17,909,172
事業費計	8,084,041	3,023,354	9,072,251	1,632,214	1,255,301	1,544,208	36,098	1,085,239	3,581,906
1. 支部事務所費	5,567,214	3,047,981	5,120,121	2,467,965	740,736	1,215,912	1,084,634	2,246,635	21,491,078
合計	1,400,000	0	900,125	0	30,000	0	0	0	1,070,125
記念事業積立	0	250,000	0	0	0	0	0	0	250,000
前受金支出	0	50,000	0	0	0	0	0	0	50,000
会費前受金	0	0	0	0	0	0	0	0	0

前期末繰越	629,285	188,438	728,215	71,512	111,446	7,765	27,335	458,093	2,222,089
次期繰越	823,976	647,577	579,868	60,855	107,716	9,987	180,701	599,961	3,010,641

科目	決算額(A)	前年度決算額	予算額(B)	差異(A)-(B)	説明
② 支費	1145,118	2,184,804	2,043,000	△ 897,882	支部事務所費含む
1 支費	213,999	203,159	207,000	△ 6,599	
2 支費	33,132	0	0	△ 33,132	
3 支費	61,890	82,520	104,000	△ 42,110	
4 支費	371,978	309,478	413,000	△ 41,022	
5 支費	481,413	497,586	485,000	△ 35,865	
6 支費	0	0	0	0	
7 支費	841,005	821,995	1,080,000	△ 238,995	職員退職金
8 支費	131,911	126,333	120,000	△ 11,911	臨時職員
9 支費	1,498,854	1,810,932	1,780,000	△ 281,146	税理士・司法書士・労務士
10 支費	83,000	85,980	215,000	△ 132,000	支部用品代、記念品代
11 支費	607,441	635,809	711,500	△ 104,059	図書費
12 支費	3,316,669	3,350,764	2,773,000	△ 541,669	タクシー、駐車料
13 支費	513,782	919,693	1,027,000	△ 513,218	交通費
14 支費	758,888	1,079,700	609,000	△ 1,004,484	会報、議案書ほか
15 支費	6,897,516	351,011	35,000	△ 14,661	本部事務所電気、冷暖房
16 支費	340,339	4,573,297	2,987,000	2,312,438	振込、郵送料等
17 支費	5,595,975	6,710,009	350,000	205,975	本部・支部事務所
18 支費	7,801,980	21,267,780	1,492,100	△ 1,062,586	会議室、印刷機り一又はほか
19 支費	429,514	92,144	20,000	△ 200,000	保管庫、金庫
20 支費	23,700	23,700	25,000	△ 1,300	法人税等
21 支費	575,750	235,750	226,000	△ 349,750	総会等看板、派遣社員
22 支費	471,388	921,194	50,000	△ 1,136,12	全日本普通道連盟募金
23 支費	50,000	50,000	30,000	△ 6,000	西三河支部補助金
24 支費	27,000	18,000	850,000	△ 16,103	職員社会保険、雇用保険
25 支費	833,897	489,400	330,000	△ 600	
26 支費	329,400	2,035,988	1,434,000	551,753	新聞広告
27 支費	1,986,153	40,872	42,000	1,052	
28 支費	43,032	559,438	0	△ 415,516	管理費目別一覽参照
29 支費	0	47,006,790	40,472,000	△ 3,178,529	
30 支費	400,056,484	136,442,600	129,727,500	△ 1,621,135	
31 支費	126,548,971	-5,772,174	42,000		
32 支費	1,663,135				
II 投資					
1 投資	3,094,000	1,324,600	2,000,000	1,094,400	資産取得
① 投資	0	0	0	0	
1 投資	0	0	0	0	
2 投資	0	0	0	0	
3 投資	0	0	0	0	
4 投資	0	0	0	0	
5 投資	310,133	500,000	0	110,133	
6 投資	3,404,133	130,000	2,200,000	1,204,133	東三河、北勢
2 投資					
① 投資					
1 投資	144,000	144,000	72,000	72,000	資産積立
2 投資	30,000	30,000	50,000	0	
3 投資	400,000	400,000	400,000	0	
4 投資	500,000	500,000	500,000	0	
5 投資	1,070,125	500,041	450,000	620,125	(平成36年) 29・30年度用
6 投資	216,412	1,094,041	1,472,000	692,125	一宮、西三河、北勢
② 投資					
1 投資	210,920	189,800	2,000,000	109,240	10万円以上備品
2 投資	2,109,240	189,800	2,000,000	189,240	
3 投資	4,273,365	1,283,841	3,472,000	801,365	
4 投資	-869,252	670,759	-1,272,000	402,768	
III 財務					
1 財務	0	0	0	0	借入金
2 財務	0	0	0	0	返済
III 備					
1 備	793,903	0	300,000	△ 300,000	
2 備	3,819,571	-5,101,415	-1,530,000	2,329,903	
3 備	8,920,786	8,920,786	6,213,334	△ 2,393,963	
4 備	4,613,274	3,819,371	4,683,334	△ 7,000,60	◎

科目	決算額(A)	前年度決算額	予算額(B)	差異(A)-(B)	説明
1 雑収入	16,072,000	16,652,000	15,640,000	582,000	支部内課参照
2 雑収入	12,660,000	12,668,000	12,660,000	60,000	支部内課参照
3 雑収入	8,782,500	8,782,500	8,730,000	52,500	支部内課参照
4 雑収入	4,914,000	5,151,000	5,110,000	40,000	支部内課参照
5 雑収入	3,105,000	3,085,000	3,050,000	35,000	支部内課参照
6 雑収入	2,514,000	2,575,000	2,530,000	45,000	支部内課参照
7 雑収入	55,400	58,400	60,000	3,000	支部内課参照
8 雑収入	1,840,000	1,720,000	1,800,000	120,000	支部内課参照
9 雑収入	910,000	910,000	910,000	0	支部内課参照
合 計	47,859,800	48,225,400	48,055,000	195,200	

事業別内訳	決算額(A)	前年度決算額	予算額(B)	差異(A)-(B)	説明
1 普通会費	1,074,225	1,386,742	970,000	144,125	支部は支部内課参照
2 支部事務費	1,857,128	1,830,816	1,713,000	1,467,128	支部内課参照
3 支部研修費	318,712	314,978	373,000	60,288	支部内課参照
4 支部研究費	146,325	146,325	5,451	854,500	支部内課参照
5 支部広報費	3,340,900	3,747,358	2,576,000	575,000	支部内課参照
6 支部広報費	2,663,000	2,672,264	6,050,000	△ 392,690	支部内課参照
7 支部広報費	5,605,647	5,605,647	5,263,000	△ 342,647	支部内課参照
8 支部広報費	4,303,386	4,303,424	5,263,000	△ 912,614	支部内課参照
9 支部広報費	1,301,400	1,299,966	1,299,000	1,140	支部内課参照
10 普通道連盟事業費	350,000	380,864	1,461,000	△ 1,111,000	一宮
11 普通道連盟事業費	752,576	970,716	772,000	△ 19,124	
12 外労者等奨励費	40,378	340,000	100,000	△ 59,622	
13 外労者等奨励費	360,000	64,800	335,000	25,000	
14 普通道連盟事業費	318,600	238,935	316,000	218,600	数室看板
15 普通道連盟事業費	254,457	64,587	100,000	77,065	
16 普通道連盟事業費	998,263	1,052,223	1,075,000	△ 76,727	
17 普通道連盟事業費	1,822,728	2,257,732	2,009,000	△ 186,272	企画委員会
18 副会費	416,880	59,994	200,000	△ 216,880	東三河、北勢
19 副会費	5,466	5,466	268,000	△ 262,534	中子下理啓
20 副会費	0	10,000	30,000	△ 30,000	
21 副会費	0	0	60,000	△ 60,000	
22 副会費	400,452	409,088	534,000	△ 133,548	
23 中日書費	35,395,089	35,149,721	35,105,000	290,089	
24 中日書費	5,974,359	6,121,887	6,089,000	114,641	
25 委員の募金費	3,929,388	3,902,320	4,313,000	△ 383,612	
26 委員の募金費	6,441,158	5,804,496	6,311,000	13,158	
27 本部祝賀会費	15,472,810	18,398,318	15,500,000	△ 27,190	
28 支部祝賀会費	2,150,516	2,384,900	2,756,000	△ 605,484	
合 計	86,492,487	89,435,810	89,255,000	△ 2,763,013	支部別内課参照

事業及び管理合計	決算額(A)	前年度決算額	予算額(B)	差異(A)-(B)	説明
1 管理費目別内訳	3,215,592	5,285,283	4,631,000	△ 1,315,408	本部
(1) 雑収入	609,580	2,828,610	1,901,000	△ 1,294,620	
(2) 理事・評議員会	1,330,509	1,474,151	1,365,000	65,509	
(3) 理事・評議員会	1,775,703	982,522	1,262,000	△ 86,287	本部
2 事務部事務費	28,984,166	31,294,225	25,860,000	3,124,166	本部
3 支部事務費	3,581,906	3,855,591	4,471,000	△ 889,094	支部別一覽参照
4 広報費	183,884	151,320	310,000	△ 126,116	掛花、見聞金等
5 会報費	4,068,936	4,975,371	5,286,000	△ 1,211,064	年4回発行
6 名簿費	22,000	22,000	20,000	2,000	
合 計	40,056,484	47,006,790	40,472,000	△ 415,516	

科目	当期末残高	前期末残高	差異	説明
1 現金	1,789,565	1,438,204	351,361	
2 普通預金	2,634,481	2,713,740	△ 79,259	
3 振替預金	474,447	163,750	310,697	
4 定期預金	0	0	0	
5 前払金	0	0	0	
6 繰入金	0	0	0	
7 繰入金	4,888,433	4,888,433	0	
8 繰入金	235,219	246,223	△ 11,104	源泉税、社会保険料
9 繰入金	50,000	250,000	△ 200,000	29年度半田委員会受取金
10 繰入金	0	0	0	
11 繰入金	285,219	496,223	△ 211,104	
12 繰入金	0	0	0	
13 繰入金	4,613,274	3,819,371	793,903	◎

1 資金の範囲  
資金の範囲には、現金預金、振替貯金、定期預金、前払金、前受金、預り金を含めており、なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するのとおりである。

2 次期繰越収支差額に対する注記  
収支計算書に含まれる資産及び負債の内容

(注) 1 収支計算書は「公益法入会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会合)の記載の様式による。

第 3 号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成29年 3 月31日現在

総 資 産 額	114,883,129 <sup>Ⓐ</sup>
基 本 財 産	30,000,000
運 用 財 産	84,883,129
負 債	285,219

		円	
I 資産の部			
1. 流動資産			
①現金預金（運用資産）			
(1) 現 金	本部 現金	482,001	
	一宮支部 現金	775,245	
	半田支部 現金	9,745	
	西三河支部 現金	259,753	
	東三河支部 現金	60,167	
	濃飛支部 現金	12,012	
	北勢支部 現金	226	
	中南勢支部 現金	173,553	
	岐阜支部 現金	16,863	
	現金合計	1,789,565	
(2) 普 通 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	426,642	① - 1
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店（理）	196,686	②
	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	250,749	③ - 1
	大垣共立銀行菊井町支店	8,333	④
	瀬戸信用金庫名古屋支店	74,351	⑤ - 1
	一宮支部 ゆうちょ銀行	48,217	⑥ - 1
	半田支部 半田信用金庫	637,832	⑦
	西三河支部 瀬戸信用金庫	195,179	⑧ - 1
	西三河支部 ゆうちょ銀行	124,936	⑨
	濃飛支部 ゆうちょ銀行	95,614	⑩
	北勢支部 ゆうちょ銀行	1,825	⑪
	岐阜支部 関信用金庫	574,117	⑫
	普通預金合計	2,634,481	
(3) 郵 便 振 替	本部 名古屋中央郵便局	449,180	⑬
	一宮支部 郵便振替	514	⑭
	半田支部 郵便振替	0	⑮
	西三河支部 郵便振替	0	⑯
	東三河支部 郵便振替	688	⑰
	濃飛支部 郵便振替	0	⑱
	北勢支部 郵便振替	7,936	⑲
	中南勢支部 郵便振替	7,148	⑳
	岐阜支部 郵便振替	8,981	㉑
	郵便振替合計	474,447	
(4) 定 期 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	0	
	大垣共立銀行菊井町支店	0	
	定期預金合計	0	
②前払金（運用資産）	過払金	0	
	前払金合計	0	
③未収金（運用資産）	未収会費	1,645,000	年会費、協賛会費
	流動資産合計	6,543,493	
2. 固定資産			
①基本財産			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 基 本 金 庫	瀬戸信用金庫名古屋支店	30,000,000	本部 公益目的保有財産 ⑤ - 2
(4) 有 価 証 券	該当なし		
(5) 機 械 器 具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
② 特 定 資 産（ 運 用 財 産 ）			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 特 定 資 産	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	47,010,000	本部 公益目的保有財産 ③ - 2
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,938,000	本部 公益目的保有財産 ① - 2
	野村証券岐阜支店	20,133,400	本部 公益目的保有財産 ㉒
国 債（20年）			
本部積立金			
90周年記念事業積立金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	1,100,000	平成36年用 ③ - 3
設備拡充資金積立金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	200,000	③ - 4
名簿費引当金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	500,000	③ - 5
退職給付引当金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	690,000	③ - 6
支部積立金			
一宮支部60周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	210,000	平成36年用 ⑥ - 2

西三河支部50周年記念事業積立金 北勢支部40周年記念事業積立金	瀬戸信用金庫 百五銀行東員支店	1,400,125 30,000	平成29年用⑧ - 2 平成28年用 ②③
③その他の固定資産（運用財産）	特定資産合計	73,211,525	
(1) 備 品	パソコン プロジェクター 印章 パソコン マークシート読取機	1 1 200,000 116,864 1,687,392	本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産
(2) そ の 他	電話加入権 保証金	171,533 2,952,320	本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 株式会社桑山
	その他の固定資産合計	5,128,111	
	固定資産合計	108,339,636	
	資 産 合 計	114,883,129	④
3. 負債	預り金	159,969 13,000 62,250	1～3月分源泉所得税 3月分市県民税 3月分社会保険料
	預り金合計	235,219	
	前受金	50,000	半田支部
	未払金	0	
	負 債 合 計	285,219	

貸 借 対 照 表

平成29年 3 月31日現在

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流 動 資 産				
① 現 金 預 金				
現 金	1,789,565	1,438,204	351,361	
普 通 預 金	2,634,481	2,713,740	△ 79,259	
郵 便 振 替 預 金	474,447	163,750	310,697	
定 期 預 金	0	0	0	
現 金 預 金 合 計	4,898,493	4,315,694	582,799	
② 前 払 費 用				
前 払 費 用	0	0	0	
過 払 金	0	0	0	
仮 払 金	0	0	0	
前 払 金 合 計	0	0	0	
③ 預 け 金				
源 泉 税 預 金	0	0	0	
市 県 民 税 預 金	0	0	0	
社 会 保 険 料 預 金	0	0	0	
預 け 金 合 計	0	0	0	
④ 未 収 会 費	1,645,000	3,178,000	△ 1,533,000	
流 動 資 産 合 計	6,543,493	7,493,694	△ 950,201	
2. 固 定 資 産				
① 基 本 財 産				
定期預金 公益目的保有財産	30,000,000	30,000,000	0	
② 特 定 資 産				
定期預金 公益目的保有財産	48,948,000	52,042,000	△ 3,094,000	
20年国債 公益目的保有財産	20,133,400	20,133,400	0	
本 部 積 立 金	2,490,000	1,396,000	1,094,000	
支 部 積 立 金	1,640,125	880,133	759,992	
特 定 資 産 合 計	73,211,525	74,451,533	△ 1,240,008	
③ そ の 他 の 固 定 資 産				
備 品 公益目的保有財産	2,004,258	483,645	1,520,613	
電話加入権 公益目的保有財産	171,533	171,533	0	
保証金 公益目的保有財産	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	5,128,111	3,607,498	1,520,613	
固 定 資 産 合 計	108,339,636	108,059,031	280,605	
資 産 合 計	114,883,129	115,552,725	△ 669,596	
II 負債の部				
1. 流 動 負 債				
預 り 受 金	235,219	246,323	△ 11,104	源泉税、社会保険料ほか
前 未 払 金	50,000	250,000	△ 200,000	半田支部準会員受取会費
未 払 金	0	0	0	
流 動 負 債 合 計	285,219	496,323	△ 211,104	
2. 固 定 負 債				
固 定 負 債 合 計	0	0	0	
負 債 合 計	285,219	496,323	△ 211,104	
III 正味財産の部				
1. 一 般 正 味 財 産	114,597,910	115,056,402	△ 458,492	
正 味 財 産 合 計	114,597,910	115,056,402	△ 458,492	⑤
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	114,883,129	115,552,725	△ 669,596	④

正味財産増減計算書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
1 基本財産受取利息	73,701	7,875	65,826	
② 特定資産運用益				
1 特定資産受取利息	249,882	139,642	110,240	
③ 受取会費				
1 評議員受取会費	13,189,000	12,870,000	319,000	
2 正会議員受取会費	16,947,000	17,297,000	△ 350,000	
3 準会議員受取会費	2,190,000	2,355,000	△ 165,000	
4 協賛会員受取会費	1,075,000	1,100,000	△ 25,000	
会費収入計	33,401,000	33,622,000	△ 221,000	
④ 未収会費発生額				
1 未収会費	1,129,000	2,627,000	△ 1,498,000	
⑤ 事業収益				
1 寿書展参加料	890,000	505,000	385,000	
2 支部展参加料	6,077,000	5,382,000	695,000	
3 支部学生展参加料	5,667,050	5,579,860	87,190	
4 支部選抜展参加料	360,000	276,000	84,000	
5 支部研修会参加料	3,025,500	3,031,000	△ 5,500	
6 支部講習会参加料	187,000	216,500	△ 29,500	
7 書道教育者推薦教室看板料	175,000	75,000	100,000	
8 塾総合保険料	242,240	262,500	△ 20,260	
9 会員交流参加料	292,000	267,000	25,000	
10 公開講座参加料	246,000	286,000	△ 40,000	
11 書道教育研修参加料	9,000	42,000	△ 33,000	
12 80周年記念事業収入	0	0	0	
13 中日書展収入	47,859,800	48,225,400	△ 365,600	
14 中日書きぞめ展収入	5,808,940	5,860,160	△ 51,220	
15 愛の募金収入	4,314,001	4,390,000	△ 75,999	
16 本部祝賀会収入	16,136,000	17,559,000	△ 1,423,000	
17 支部祝賀会収入	2,055,500	2,354,500	△ 299,000	
事業収益計	93,345,031	94,311,920	△ 966,889	
⑥ 受取寄付金				
1 受取寄付金	50,000	0	50,000	
⑦ 雑収益				
1 普通預金受取利息	92	1,179	△ 1,087	
2 会員名簿広告料収入	0	1,050,000	△ 1,050,000	
3 宛名ラベル発 hands 料収入	310,400	330,810	△ 20,410	
4 負担金収入	97,000	98,000	△ 1,000	
5 雑収入	6,000	104,000	△ 98,000	
雑収益計	413,492	1,583,989	△ 1,170,497	
経常収益計	128,662,106	132,292,426	△ 3,630,320	
(2) 経常費用				
① 経常費用				
1 理事監事報酬	1,145,118	2,184,804	△ 1,039,686	
2 名誉会長報酬	213,599	203,159	10,440	
3 名誉会長代行報酬	33,132	0	33,132	
4 名誉副会長報酬	61,890	82,520	△ 20,630	
5 学術顧問報酬	371,978	309,478	62,500	
6 企画委員を兼務する評議員報酬	954,032	1,336,932	△ 382,900	
7 従業員給料手当	4,814,135	4,997,586	△ 183,451	
8 退職金	0	0	0	
9 臨時雇賃金	1,767,371	1,771,260	△ 3,889	
10 福利厚生費	131,911	126,333	5,578	
11 報償金	2,610,828	3,180,388	△ 569,560	
12 報償奨励金	7,095,294	7,953,874	△ 858,580	
13 報償交際費	921,681	1,112,870	△ 191,189	
14 旅費交通費	13,635,049	14,127,440	△ 492,391	
15 食糧費	8,823,634	8,197,701	625,933	
16 消耗品費	1,432,450	1,477,747	△ 45,297	
17 印刷製本費	16,432,779	19,671,828	△ 3,239,049	
18 光熱水費	362,539	423,691	△ 61,152	
19 通信運搬費	6,366,164	5,223,839	1,142,325	
20 手数料	744,773	753,849	△ 9,076	
21 事務所用賃料	7,801,980	6,710,009	1,091,971	
22 使 用 料	7,740,101	10,073,444	△ 2,333,343	
23 消耗什器備品費	0	92,144	△ 92,144	

24	租 税 公 課	23,700	23,700	0
25	負 担 金	925,750	645,750	280,000
26	委 託 料	5,988,410	4,414,807	1,573,603
27	寄 託 費	3,850,000	3,910,000	△ 60,000
28	補 助 成	67,000	18,000	49,000
29	法 定 福 利	833,897	930,652	△ 96,755
30	会 員 交 流 費	501,990	499,790	2,200
31	対 外 広 報 費	7,838,200	7,998,200	△ 160,000
32	会 議 除 費	2,871,509	4,100,186	△ 1,228,677
33	保 険 料	273,245	290,057	△ 16,812
34	新 開 函 書 費	43,032	40,872	2,160
35	表 装 保 管 料	2,300,562	3,068,650	△ 768,088
36	本 部 講 演 会 祝 賀 会 費	15,442,810	17,549,882	△ 2,107,072
37	支 部 展 覧 会 講 演 会 費	2,128,428	2,381,720	△ 253,292
38	雑 支 出	0	559,438	△ 559,438
39	什 器 備 品 減 価 償 却 費	588,627	356,579	232,048
経 常 費 用 計 額	127,137,598	136,799,179	△ 9,661,581	
② 未 収 会 費 貸 倒 額				
1 未 収 会 費 貸 倒 額	1,983,000	2,726,000	△ 743,000	
経 常 費 用 計 額	129,120,598	139,525,179	△ 10,404,581	
当 期 経 常 増 減 額	-458,492	-7,232,753	6,774,261	
2. 経 常 外 増 減 の 部				
(1) 経 常 外 収 益 計	0	0	0	
(2) 経 常 外 費 用 計	0	0	0	
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	-458,492	-7,232,753	6,774,261	
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	115,056,402	122,289,155	△ 7,232,753	
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	114,597,910	115,056,402	△ 458,492	
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部				
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0	
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0	
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0	
III 正 味 財 産 期 末 残 高	114,597,910	115,056,402	△ 458,492 ㊦	

正 味 財 産 増 減 計 算 書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)  
平成28年 4 月 1 日から平成29年 3 月 31日まで  
公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公 1	公 2	他 1			
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
① 基本財産運用収入						
基本財産運用収入	73,701	0	0	0	73,701	
② 特定資産運用収入						
特定資産運用収入	249,882	0	0	0	249,882	
③ 会 費 収 入						
評議員等会費収入	6,594,500	0	1,318,900	5,275,600	13,189,000	評議員以上11000円×1199名
正会員会費収入	8,473,500	0	1,694,700	6,778,800	16,947,000	正会員7000円×2421名
準会員会費収入	1,095,000	0	219,000	876,000	2,190,000	準会員5000円×438名
協賛会員会費収入	537,500	0	107,500	430,000	1,075,000	協賛会員25000円×43件
④ 未 収 会 費						
未 収 会 費	564,500	0	112,900	451,600	1,129,000	
⑤ 事 業 収 益						
寿 書 展 収 入	0	0	890,000	0	890,000	出品料・祝賀会費
支 部 展 収 入	0	0	6,077,000	0	6,077,000	支部別内訳参照
支 部 学 生 展 収 入	5,667,050	0	0	0	5,667,050	支部別内訳参照
支 部 選 抜 展 収 入	0	0	360,000	0	360,000	支部別内訳参照
支 部 研 修 会 収 入	0	0	3,025,500	0	3,025,500	支部別内訳参照
支 部 講 演 会 収 入	0	0	187,000	0	187,000	支部別内訳参照
書 道 教 育 推 薦 教 室 看 板 料	0	0	175,000	0	175,000	25000円×7件
塾 総 合 保 険 料	0	0	242,240	0	242,240	55件1866名
会 員 交 流 参 加 料	0	0	292,000	0	292,000	92名
公 開 講 座 参 加 料	246,000	0	0	0	246,000	2000円×123名
書 道 教 育 研 修 参 加 料	0	0	9,000	0	9,000	3000円×101名 (有料3名)
周 年 記 念 事 業 収 入	0	0	0	0	0	

中日展収入	47,859,800	0	0	0	47,859,800	中日展収入内訳参照
中日書きぞめ展収入	5,808,940	0	0	0	5,808,940	400円×約16000点(整理費差引)
愛の募金収入	0	4,314,001	0	0	4,314,001	
本部祝賀会収入	0	0	16,136,000	0	16,136,000	
支部祝賀会収入	0	0	2,055,500	0	2,055,500	支部別内訳参照
⑥ 寄付金収入						
寄付金収入	50,000	0	0	0	50,000	FAQ VI -1-①
⑦ 雑収入						
普通預金受取利息	0	0	0	92	92	
会員名簿広告料収入	0	0	0	0	0	
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	310,400	310,400	
負担金収入	97,000	0	0	0	97,000	一宮芸術祭交付金 FAQ VI -1-①
雑収入	0	0	0	6,000	6,000	備品貸出、協賛金ほか
経常収益計	77,317,373	4,314,001	32,902,240	14,128,492	128,662,106	
(2) 経常費用						
理事監事報酬	0	0	0	1,145,118	1,145,118	
名誉会長報酬	0	0	0	213,599	213,599	
名誉会長代行報酬	0	0	0	33,132	33,132	
名誉副会長報酬	0	0	0	61,890	61,890	
学術顧問報酬	0	0	0	371,978	371,978	
企画委員を兼務する評議員報酬	763,226	0	95,403	95,403	954,032	
従業員給料手当	3,851,309	0	481,413	481,413	4,814,135	職員給与・賞与
退職給付	0	0	0	0	0	
臨時雇賃金	1,590,634	0	176,737	0	1,767,371	中日展・寿展
福利厚生費	105,529	0	13,191	13,191	131,911	
報償謝金	2,088,664	0	261,082	261,082	2,610,828	各種謝礼 / 税理士・司法書士等
報償奨励	6,385,765	0	709,529	0	7,095,294	賞品代・記念品代 / 支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	460,841	460,840	921,681	支部事業交際費 / 慶弔等
旅費交通費	12,271,545	0	1,363,504	0	13,635,049	作業時交通費等
食糧費	7,941,271	0	882,363	0	8,823,634	作業時交通費等
消耗品費	1,145,960	0	143,245	143,245	1,432,450	
印刷製本費	6,432,779	500,000	4,800,000	4,700,000	16,432,779	会報その他
光熱水費	290,033	0	36,253	36,253	362,539	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	5,092,932	0	636,616	636,616	6,366,164	電話、郵送料等
手数料	595,819	0	74,477	74,477	744,773	振込料
事務所賃料	6,241,584	0	780,198	780,198	7,801,980	本部事務所
使用料	6,192,081	0	774,010	774,010	7,740,101	会場使用料等 / 会議室
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	
租税公課	0	0	0	23,700	23,700	法人税等
負担金	0	0	0	925,750	925,750	支部事業支払会費 / 諸会費
委託料	4,790,728	0	598,841	598,841	5,988,410	看板作成等 / 総会等看板
寄託費	0	3,850,000	0	0	3,850,000	愛の募金による寄託 ほか
補助助成	0	0	67,000	0	67,000	外国研修補助
対外広報費	6,270,560	0	783,820	783,820	7,838,200	中日新聞ほか掲載料
会議費	2,297,209	0	287,150	287,150	2,871,509	
保険料	0	0	0	273,245	273,245	
新聞図書費	0	0	0	43,032	43,032	
表装保管料	1,150,281	0	1,150,281	0	2,300,562	
法定福利	667,117	0	83,390	83,390	833,897	職員社会保険、雇用保険
会員交流費	0	0	501,990	0	501,990	
本部講演会祝賀会費	0	0	15,442,810	0	15,442,810	
支部展覧会講演会費	0	0	2,128,428	0	2,128,428	
什器備品減価償却費	470,903	0	58,862	58,862	588,627	備品
雑支出	0	0	0	0	0	
未収会費貸倒額	991,500		198,300	793,200	1,983,000	
経常費用計	77,627,429	4,350,000	32,989,734	14,153,435	129,120,598	
当期経常増減額	△ 310,056	△ 35,999	△ 87,494	△ 24,943	△ 458,492	
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 310,056	△ 35,999	△ 87,494	△ 24,943	△ 458,492	
一般正味財産期首残高					115,056,402	平成28年3月31日残高
一般正味財産期末残高					114,597,910	
II 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替額					0	
当期指定正味財産増減額					0	
指定正味財産期首残高					0	
指定正味財産期末残高					0	
III 正味財産期末残高					114,597,910	

## 財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会  
事業名：事業全体

## 1 重要な会計方針

## (1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産（建物を除く） 定額法

## (2) 引当金の計上基準

・職員退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

## (3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

## (4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

## 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	52,042,000	0	3,094,000	48,948,000
20年国債	20,133,400	0	0	20,133,400
本部積立金	1,396,000	1,094,000	0	2,490,000
支部積立金	880,133	859,992	100,000	1,640,125
小 計	74,451,533	1,953,992	3,194,000	73,211,525
合 計	104,451,533	1,953,992	3,194,000	103,211,525

## 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
小計	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
特定資産				
定期預金	48,948,000	(0)	(48,948,000)	(0)
20年国債	20,133,400	(0)	(20,133,400)	(0)
本部積立金	2,490,000	(0)	(2,490,000)	(0)
支部積立金	1,640,125	(0)	(1,640,125)	(0)
小 計	73,211,525	(0)	(73,211,525)	(0)
合 計	103,211,525	(0)	(103,211,525)	(0)

## 4 減価償却資産の内訳

備 品	取得年月	法定耐用年数	取得価額	前期末価額	当期償却額	当期末価額
プロジェクター	H20.10	5	119,700	1	0	1
パソコン	H21.01	4	111,025	1	0	1
印章	H26.04	5	500,000	300,000	100,000	200,000
パソコン	H27.01	4	267,116	183,643	66,779	116,864
マークシート読取機	H28.04	5	2,109,240	-	421,848	1,687,392
合 計				483,645	588,627	2,004,258

## 監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会  
理事長 伊 藤 昌 石 殿

私たち監事は、平成28年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2 監査意見

## (1) 事業報告の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の不足無の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

## (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成29年 5 月 7 日

監 事 伊 藤 義 文 ( 暁 嶺 ) ㊟

監 事 柘 英 樹 ( 英 峰 ) ㊟

監 事 古 川 昇 史 ㊟

# 公益社団法人 中部日本書道会

## 第29回 書道教育研修会のご案内

### 〈 実 技 講 習 〉

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

- ◆期 日 平成29年10月9日(祝・月)
- ◆会 場 名古屋国際センター  
5階第1会議室、第3、4、5会議室  
名古屋市中村区那古野1丁目47-1 電話〈052〉581-5679
- ◆受 付 9：25～9：45 (A・Bコース共)
- ◆内 容 9：45～開会式  
9：55～書道講話 中部日本書道会理事長 関根玉振先生

時 間	A コース	場所：第1会議室	時 間	B コース	場所：第3、4、5会議室
10:30～12:20	かな —美しいかな ～古筆と共に～	中部日本書道会評議員 清水春蘭先生	10:30～12:20	近代詩文書 —詩文書をたのしむ—	中部日本書道会監事 佐野翠峰先生
12:30～13:30	昼食		12:30～13:30	昼食	
13:30～15:20	漢字 —草書を書く—	中部日本書道会評議員 荒木友梅先生	13:30～15:20	篆刻 —字印を刻してみよう—	中部日本書道会理事 鈴木立齋先生
15:45～16:00	閉会式 終了証書授与		15:45～16:00	閉会式 終了証書授与	

● Aコース・Bコースのどちらかを選んで申し込んで下さい。 ●必ず午前、午後共受講して下さい。 ●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

- ◆受講資格 本会会員及び一般  
但、本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は必修です。
- ◆受講料 本会会員無料  
一般 3,000円 (教材費)
- ◆定 員 100名 (Aコース・Bコースとも50人以内)
- ◆申込方法 本部まで申込書郵送にてお申し込み下さい。  
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号  
桑山ビル8階C号室 ☎052-583-1900  
公益社団法人 中部日本書道会
- ◆申込期限 平成29年9月7日(木)  
定員になり次第締め切ります。

主催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社  
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会(申請中)

# 平成29年度 第21回 書の魅力 公開講座 (予告)

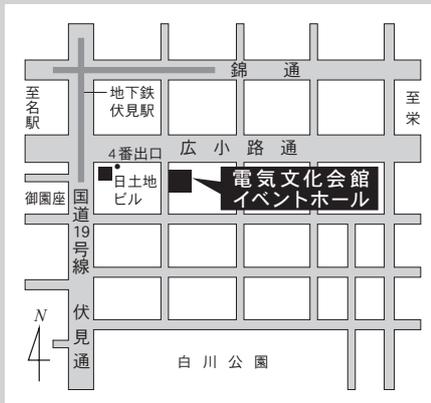
会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する 2 名の講師が書の魅力について講演します。

○日 時 平成29年11月26日(日)

第一講座 13:15~14:15 第二講座 14:35~15:35  
理事 工藤俊朴先生 理事 村瀬俊彦先生

○会 場 電気文化会館 イベントホール (5階)  
名古屋市中区栄 2-2-5

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社  
後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



## 社中展・個展のご案内

### ○第五十三回 麗筆会展

代表 武山翠屋  
会期 九月二十二日(金)~二十四日(日)  
会場 一宮スポーツ文化センター二階

### ○清晨会 PART II 書展

併設 学生選抜展  
代表 吉田清城  
会期 十一月七日(火)~十二日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階  
第九・十展示室

### ○玄煌社中展

中日新聞に掲載された  
「平和の俳句」を書く  
代表 黒田玄夏  
会期 十月二十四日(火)~二十九日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階  
併催 黒田玄夏近作選

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。  
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。  
次号(十月号)は十一月中旬から翌年二月中旬までの展覧会を掲載する予定です。  
編集部

## 平成二十九年 愛知県・江蘇省友好書道展

### 国外史跡探訪研修旅行

十一月二十一日(火)~二十三日

## 新入会員紹介 (四・五・六月分)

- 本 部 ●半田支部 ●角谷 梅径 小川 次子
- 飯田 楽舟 ●長坂 結衣 高橋 彩雪 佐藤 一男
- 林 翠波 ●西三支部 ●中川 昭子 白川 眞弓
- 一宮支部 ●加藤 八朗 間瀬 朱軒 高槻 和子
- 小川 香風 上中 敬三 松村 昭 花井 泉草
- 古田 翠楊 神谷 惠舟 宮田 昭子 岐本 明生
- 脇田 采藍 近藤 翠香 ●東三支部 ●井口 洋子 小林 茉永
- 佐々木花抱 櫻井 翠陽

### 訃 報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

- 4月5日 評議員 築山みなみ氏 〇5月20日 准会員 田中翠穂氏 享年93才
- ご母堂 みさ子様
- 4月5日 評議員 林 大樹氏 〇6月5日 評議員 関戸海越氏 享年93才
- ご尊父 逸夫様
- 5月1日 評議員 待田康苑氏 〇6月28日 評議員 酒向清谷氏 享年85才
- 〇5月11日 評議員 都筑聖園氏 〇6月30日 評議員 國府谷妙仔氏 享年87才
- ご主人 徹様 〇7月5日 常任顧問 黒野清宇氏 享年90才
- 〇5月12日 正会員 北野敦子氏 〇7月20日 評議員 田中恵美子氏 享年80才
- 〇5月13日 評議員 美濃羽城開氏 〇7月20日 事後報告 山本陽子氏 享年80才
- ご母堂 洋子様 享年88才

### あとがき

中日会報第一八五号をお届けいたします。  
本号は、関根玉振新理事長を中心とする、平成二十九・三十年新役員のご紹介を始め第六十七回中日書道展の特集・平成二十九年度総会のご報告等、充実の内容となっております。編集につきましては、前任の工藤俊朴先生のお力によるものでございます。  
次号より新編集部一同が、務めさせていただきますので、宜しくお願いいたします。(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)